



高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定 尺度の開発とその利用

小田, 利勝

(Citation)

神戸大学発達科学部研究紀要, 10(1):271-307

(Issue Date)

2002-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCOI)

<https://doi.org/10.24546/81000513>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000513>



高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの 測定尺度の開発とその利用

小田 利勝*

Developing Scales for Measuring Everyday Competence/
Life Skills of the Elderly and Their Application

Toshikatsu ODA

はじめに

既に別稿で詳述したように(小田, 1999)、日常的コンピテンス (everyday competence) とは、自立生活を送るために日常生活を効果的に調整し、日常生活に必須な諸活動を行うことができる能力または潜在的可能性のことである。それは、言い換えれば、個人の日常的な生活諸欲求を充足する能力にほかならない。日常的な生活欲求が充足されている状態は、一般に、生活満足とか幸福といわれる。したがって、日常的コンピテンスの水準が高ければ、生活満足感あるいは幸福感も高いことになる。

高齢期における生活満足感や幸福感に関する研究は、周知のように、主観的な基準 (subjective criteria) によるサクセスフル・エイジングの研究として早くから関心を集め、数多くの研究が蓄積されてきた(小田, 1993)。そして、その過程で、生活満足感 (life satisfaction) や幸福感 (subjective well-being) を測定する種々の尺度が開発され、それらを用いてサクセスフル・エイジングの内容や要因が究明されてきた。高齢期／高齢者のコンピテンスもサクセスフル・エイジングの要因の一つとして研究され、また、高齢期の変化に対する適応能力 (adaptive competence) を発揮していく過程こそがサクセスフル・エイジングであるとされてきた (Featherman et al., 1990)。

しかしながら、高齢者の日常的コンピテンスを的確に測定するための項目や尺度に関しては未だ “gold standard” といえるものはなく (Diehl, 1998)、適切な測定尺度の開発が求められているところである。本稿は、その一つの試みであり、高齢者の日常的コンピテンスの構造の分析 (小田, 2002) に基づいて、主にスキルの次元での高齢者の日常的コンピテンス—これを本稿ではライフ・スキルと呼ぶ (小田ほか, 1997; 小田, 1999) —を測定する諸尺度の開発と、それら尺度を用いて日常的コンピテンス／ライフ・スキルとサクセスフル・エイジングとの関連を分析した結果を報告するものである。

*神戸大学発達科学部人間科学研究センター (Research Center for Human Sciences, Faculty of Human Development, Kobe University). 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11 (2002年4月30日 受付)
oda@kobe-u.ac.jp (2002年5月30日 受理)

1. データ

本稿で扱うデータは、神戸市在住の65歳以上の男女5,000人を対象とする郵送調査から得られたものの一部である。対象者の抽出方法は次の通りである。

まず、1999年1月31日現在の神戸市における65歳以上人口236,874人の区別分布に基づいて5,000票を全9区に比例配分した。次に、各区から8つの投票区を乱数を用いて無作為に抽出し、各投票区の選挙人名簿を用いて、あらかじめ乱数を用いて決めておいた最初の抽出番号にしたがって等間隔系統抽出を行った。

調査の期間は1999年6月から10月までであり、その間に未返送分については督促状を送った。最終的に回収されたのは2,732票であり、回収率は54.6%である。

回収票における区別の1999年1月31日現在の神戸市の65歳以上人口の区別割合は以下の通りである(括弧の前につけた数字は回収数である。括弧内の左側の数値は回収票における割合で、右側の数値が65歳以上の実人口における割合である)。

東灘区337人(12.3% : 11.5%)、灘区239人(8.7% : 9.0%)、兵庫区218人(8.0% : 9.9%)、長田区296人(10.8% : 9.5%)、須磨区330人(12.1% : 11.5%)、垂水区416人(15.2% : 16.0%)、北区387人(14.2% : 13.4%)、中央区219人(8.0% : 8.2%)、西区290人(10.6% : 11.0%)。

回答者の基本的属性は次の通りである(性別と年齢に関しては、括弧内の左側の数値が回収票における割合で、右側が神戸市全市における割合)。

性別—男1,200人(43.9% : 41.4%)、女1,509人(55.2% : 58.6%)、不明23人(0.9%)。

年齢—不明の50人を除くと平均73.6歳(標準偏差6.3歳)、最高99歳。5歳階級別では、65-69歳1,069人(39.9% : 35.3%)、70-74歳617人(18.9% : 27.2%)、75-79歳506人(18.9% : 17.7%)、80歳以上490人(18.3% : 19.8%)。

世帯形態—単身414人(15.7%)、夫婦のみ1,113人(40.7%)、核家族383人(14.0%)、既婚子と同居526人(19.3%)、親と同居51人(1.9%)、その他149人(5.5%)、不明96人(3.5%)。

日常的コンピテンス/ライフ・スキルに関わる項目には数多くのものがあげられるが、本稿で取り上げる諸項目は、主として心理社会的スキルに関わる項目である。それら各項目に関して、「次のような事柄は、あなた自身に、どれくらい当てはまりますか」と尋ね、「自分にピッタリ当てはまる」、「自分にだいたい当てはまる」、「自分にはあまり当てはまらない」、「自分には全然当てはまらない」の4つの選択肢を用意し、どれか一つを選ぶように依頼した。分析に際しては、それらにそれぞれ4~1の得点を与えた。

2. 測定尺度

(1) 幸福感の測定尺度

本稿で用いる幸福感尺度は、LSI-A (Life Satisfaction Index A : Neugarten et al., 1961) やPGS (Philadelphia Geriatric Center Morale Scale : Lawton, 1972)、Affect Ballance Scale (情緒均衡尺度 : Bradburn, 1969)などを参考にしながら筆者が作成した「老後生活観尺度」と「アフェクト・バランス尺度」である。それらは、それぞれ2つの一次元尺度で構成されている。前者は「肯定的老後生活観尺度」と「否定的老後生活観尺度」である。作成当初は、それぞれ6項目と5項目で構成していたが(小田, 1992)、本稿では、ともに9項目から構成する尺度を用いる。後者は「ポジティブ・アフェクト尺度」と「ネガティブ・アフェクト尺度」である。Bradburn (1969) のアフェクト・バランス尺度は、ポジティブ・アフェクト(肯定的感情)とネガティブ・アフェクト(否定的感情)の項目

高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

がそれぞれ5項目ずつの10項目で構成されているが、筆者が作成した尺度は、それぞれ6項目と8項目の14項目で構成されている。

老後生活観尺度とアフェクト・バランス尺度の項目は以下の通りである。

【老後生活観尺度の項目】

(各項目の選択肢は「とてもそう思う(感じる)」、「少し、そう思う(感じる)」、「そうは思わない(感じない)」の3件法で、それぞれに3~1を配点)

①肯定的老後生活観(クロンバックの α 係数=0.889)

1. 今が、自分の人生でいちばん幸せな時だ
2. 若い時とくらべて、今やっていることは、おもしろい
4. 今の生活に満足している
5. 今は余生を楽しんでいるという感じをもっている
6. 年をとることは若いときに考えていたよりはよいものだ
7. 自分の人生をふりかえてみて、まあ満足といえる
8. 求めていたことを、だいたい手に入れることができた
9. やりたいと思ったことは、たいてい果たすことができた

②否定的老後生活観の項目($\alpha=0.740$)

1. すること、なすことが変わりばえせず、退屈だ
2. 私は年をとったと感ずるし、少し疲れている
3. 同年輩の人たちに比べて、ずいぶん馬鹿なことをしてきた
4. 今の生活に不幸せなことがある
5. 悲しいことがたくさんある
6. 不安(心配)に思うことがたくさんある
7. 年はとりたくないものだ
8. 何ごとも年相応(としそうおう)が一番だ
9. 老後の生活ってこんなものだろう

【アフェクト・バランス尺度の項目】

(各項目の選択肢は、「何回も、そうした気分になった」、「数回は、そうした気分になった」、「一度くらい、そうした気分になった」、「そうした気分になったことはない」の4件法で、それぞれ4~1点を配点)。

①ポジティブ・アフェクト($\alpha=0.843$)

1. 何かを成し遂げたうれしさを感じた
2. 物事が自分の思い通りになった気分
3. 人から尊敬・大事にされている気分
4. 自分がしたことがほめられて自慢の気分
5. 何かに熱中・夢中・興奮した気分
6. 気力が充実して力がわいてきた気分

②ネガティブ・アフェクト($\alpha=0.837$)

1. イライラして落ち着かない気分
2. 退屈でしかたがない気分
3. 憂鬱(ゆううつ)な気分
4. 一人ぼっちでさびしいという気分
5. 誰かに批判・非難されて落ち込んだ気分
6. 何かするのが億劫(おっくう)な気分
7. 自分は不幸だという気分
8. 何となく疲れた気分

(2) 主観的老化度の測定尺度

本稿では、以上のような幸福感尺度に加えて、「主観的老化度尺度」をサクセスフル・エイジングの測定尺度の一つとして用いることにする。この「主観的老化度尺度」は、キャバン(Cavani, 1949)の精神的老化度指標を参考に筆者が作成したものであるが、キャバンのそれと異なるところは、「日常活動老化度」と「心理社会的老化度」の2つの次元尺度で構成されていることである(小田, 1992)。

終生変わることなく心身共に青年期のようにエネルギーに満ちた人生を送ることができれば、これに優る幸福はないであろうが、残念ながら、中年期を過ぎれば、程度の差はあれ、五感の衰えや心身の活動能力の低下を誰しもが避けることはできない。サクセスフル・エイジングとは、高齢になっても衰えることなく若さを保ち続けることではなく、上手く年をとることである（小田，1993；1997）。それは、「老化」と呼ばれる加齢に伴う様々な変化を自覚的に受け入れて、高齢期の生活にうまく適応していくことである。「老化」を受け入れるということは、そうした変化に対して、それは加齢に伴う自然な過程であると納得して否定的な感情を強く抱かないということである。「日常活動老化度」は、自らの日常的な活動の変化に対する否定的な感情の程度であり、「心理社会的老化度」は、心理社会面における変化に対する否定的な感情の程度である。そうした主観的老化度は、コンピテンスの水準が高ければ低いと考えられる。

老化度尺度の項目は以下の通りである。なお、年齢と主観的老化度との相関係数は、「日常活動老化度」では0.213 ($p < 0.001$)、「心理社会的老化度」では0.149 ($p < 0.001$)である。年齢と主観的老化度は順相関の関係にあり、年齢が上がるにつれて主観的老化度が高くなることがわかる。しかし、係数自体は大きいものではなく、主観的老化度に対する年齢の影響はかなり小さいものでしかないこともわかる。

【主観的老化度尺度の項目】

(各項目の選択肢は、「とてもそう思う（感じる）」、「少し、そう思う（感じる）」、「そうは思わない（感じない）」の3件法で、それぞれに3～1を配点)

①日常活動老化度 ($\alpha = 0.814$)

1. 風呂に入るのが億劫(おっくう)になった
2. 掃除や片づけがめんどうになった
3. おしゃれや身だしなみに気をくばるのが面倒になった
4. トイレに行くのがめんどうになった
5. 布団の上げ下げやベッドの整頓が面倒になった
6. 他人とつきあうのが面倒になった
7. 以前よりも、わがままになった
8. 人と話しをするのがめんどうになった

②心理社会的老化度 ($\alpha = 0.811$)

1. 以前なら感じなかったことがわずらわしくなった
2. 自分自身の感情の動きに敏感になった
3. 一度計画したことを変更することがなかなかできなくなった
4. 騒々しいと以前よりもイライラするようになった
5. 仕事や家事など手早くしなければと神経質になった
6. 愚痴(ぐち)っぽくなった
7. 昔のことをよくしゃべるようになった
8. 新しいことを覚えるのが億劫になった
9. 物を捨てるのがもったいなくて、ついしまいこむようになった
10. 最近あった出来事でも忘れっぽくなった
11. 年をとって前よりも役に立たなくなった

(2) 老後生活観尺度、アフェクト・バランス尺度、老化度尺度の相関関係

Bradburn (1969) のアフェクト・バランスの考え方は、ポジティブ・アフェクトとネガティブ・アフェクトとは独立であると仮定されている。ポジティブ・アフェクトが強いからといってネガティブ

高齢者の日常的コンピテンシ／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

・アフェクトが弱い、あるいはポジティブ・アフェクトが弱いからといってネガティブ・アフェクトが強いというわけではない、ということである。分析的には、ポジティブ・アフェクト得点とネガティブ・アフェクト得点とは無相関であるということである。

本稿で扱うデータに関していえば、表1に見るように、ポジティブ・アフェクト得点とネガティブ・アフェクト得点の相関係数は0.068と正の相関で、1%水準で有意である。ポジティブ・アフェクトが強いとネガティブ・アフェクトも強いということになるが、その関係は、相関係数の値自体の小ささからいって無視できるほどであり、実質的には無相関とみなしてもよいくらいである。とはいえ、両者が明らかに順相関の関係にあるという結果は釈然としないともいえる。アフェクト・バランスの考え方では、ポジティブ・アフェクトがネガティブ・アフェクトを上回り、その程度が大きいほど幸福感が高いと判断するが、両者が順相関の関係にあるという今回の結果は、肯定的感情を強く持つ人（持たない人）は、否定的感情も強く持つ（持たない）ということを示していると解釈した方がよさそうである。ちなみに、ポジティブ・アフェクトのネガティブ・アフェクトに対する比をとると（ここでのアフェクト・バランス尺度はポジティブ・アフェクト尺度とネガティブ・アフェクト尺度の項目数が異なるので、各尺度による得点を項目数で割った平均得点を用いて比率を算出した）、1以上すなわちポジティブ・アフェクトがネガティブ・アフェクトを上回る回答者が全体の60%を占めている。

表1. 幸福感尺度および老化度尺度相互の相関係数

		肯定的 老後生活観	否定的 老後生活観	ポジティ ブ・アフ ェクト	ネガティ ブ・アフ ェクト	日常活動 老化度	心理社会的 老化度
肯定的老後生活観	相関係数	1.000	-0.297	0.458	-0.298	-0.258	-0.183
	有意確率		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	N	2460	2417	2099	2157	2415	2407
否定的老後生活観	相関係数		1.000	-0.113	0.541	0.451	0.571
	有意確率			0.000	0.000	0.000	0.000
	N		2455	2102	2160	2421	2420
ポジティブ・アフェクト	相関係数			1.000	0.068	-0.199	-0.047
	有意確率				0.002	0.000	0.030
	N			2144	2051	2101	2093
ネガティブ・アフェクト	相関係数				1.000	0.446	0.528
	有意確率					0.000	0.000
	N				2202	2155	2149
日常活動老化度	相関係数					1.000	0.626
	有意確率						0.000
	N					2469	2431
心理社会的老化度	相関係数						1.000
	有意確率						
	N						2456

肯定的老後生活観と否定的老後生活観に関しては両者に有意な逆相関が認められる。しかし、その関係はそれほど強いものではない。老化度に関しては、日常活動老化度と心理社会的老化度との間には比較的強い相関関係が認められるが、相互に代替しうほどの関係ではない。肯定的老後生活観とポジティブ・アフェクト、否定的老後生活観とネガティブ・アフェクトもそれぞれ比較的強い相関関係があるが、老後生活観とアフェクトバランスを相互代替的に用いることができるほどには強い関係

があるわけではない。

ポジティブ・アフェクトと日常活動老化度とは逆相関の、ネガティブ・アフェクトと日常活動老化度および心理社会的老化度とは高い順相関の、否定的老後生活観と日常活動老化度および心理社会的老化度とは高い順相関の関係にある。否定的老後生活観およびネガティブ・アフェクトは、日常活動老化度よりも心理社会的老化度との関連が強い。老化度を幸福感の規定因と見なした場合には、日常的な行動との関連で意識する老化よりも、心理社会的な老化意識の方が、高齢期の生活に対する否定的態度や感情を、より促進していることがうかがわれる。ちなみに、否定的老後生活観を従属変数として2つの老化度を独立変数とする回帰分析の結果は、日常活動老化度の標準化係数は0.152 (偏相関係数0.143、 $t=7.1$ 、 $p<0.001$)、心理社会的老化度のそれは0.476 (偏相関係数0.413、 $t=22.2$ 、 $p<0.001$) で、 $R=0.584$ であり、ネガティブ・アフェクトを従属変数とした場合のそれらは、それぞれ0.187 (偏相関係数0.164、 $t=7.8$ 、 $p<0.001$)、0.407 (偏相関係数0.347、 $t=17.1$) で、 $R=0.547$) である。

(3) 高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの諸尺度

主成分分析と共分散構造分析によって明らかにされた高齢者の日常的コンピテンスの構造 (小田, 2002) に基づいて作成した尺度とそれらの信頼性係数 (クロンバックの α) を以下に記す。なお、先に述べたように、各項目への回答は4件法である。

幾つかの尺度に関しては類似の尺度を複数作成した。それらに関しては、類似尺度であることがわかるように同一名称にして番号を付した。それらのいずれを用いるかは、目的と測定の便宜に応じて決めればよい。多くの尺度は1次元尺度であるが、たとえば、「合理的積極性」というコンピテンスの測定尺度は、「合理的思考」と「アスピレーション」に分割できる2次元尺度として作成されている。そうした尺度は、構成している項目を見比べればおおよその見当がつくはずであるが、その詳細については別稿 (小田, 2002) を参照されたい。

ところで、高齢期の生活満足や幸福感をコンピテンスやライフ・スキルの観点から考える場合、筆者が留意したことは次のようなことである。

一般に、活動的で社会的であることは望ましいこととされ、高齢期においてもそうした生活スタイルが維持されれば生活満足感や幸福感が高まると考えられている。そして、そうした生活スタイルが奨励され、それを促進する施策や事業が行われている。しかし、生活満足感とか幸福感というものはすぐれて主観的なものである以上、外見的には活動的でも社会的でもない生活スタイルの人でも高い生活満足感や幸福感を味わっている高齢者もいよう。自分に忠実に、あるいは孤高を持してマイペースで我が道を行く、ということも、一つの生活スタイルであり、生き方である。それは、見方によれば人間関係に配慮を欠いた自分勝手にわがままな生活スタイル、生き方もいえるが、そうすることで、その人の生活欲求が充足されているとすれば、あるいは、そうすることが、その人の生活欲求を充足する生活スタイルであるとすれば、そうした生活スタイルや生き方を可能にするコンピテンス／ライフ・スキルをその人は持っているともみやすことができよう。高齢期における生活が青壮年期のそれと異なるところは、離脱理論やジェロトランセンデンス理論 (中島・小田, 2001) から示唆されるように、拘束的な社会関係と義務的活動から離れて、より主意的で選択的な社会関係の下で自分の意に添った生活スタイル、生き方を実現することが許されるというところにあるからである。以上のような観点を、ここでは仮に自己志向仮説と呼んでおく。

第二には、負のコンピテンス／ライフ・スキルという考え方である。たとえば、孤独や不安といったコンピテンス／ライフ・スキルという表現は幾分かは不自然ではあり、何らかのコンピテンス／ライフ・スキルが孤独や不安という感情を規定するという見方もできるが、そうした否定的感情を強く

高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

抱くことは、そうした感情を抑制あるいは解消するコンピテンス／ライフ・スキルの水準が低いことを示していると解釈することができる。本稿では、そうした負のコンピテンスとして、孤立と依存性を取り上げる。

なお、一般的には、クロンバックの α 値は0.7を越えれば、その尺度の信頼性（内部一貫性）が高いと見なされている。しかし、どの程度の値でなければならないという絶対的な基準は特にない。したがって、 α 値は大きければ大きいほど良いことになるが、それが低いからといって、その尺度の有効性そのものが低い、あるいは、その尺度は無効であるというわけではない。

合理的積極性 $\alpha = .8812$

1. 遊びでも仕事でも、やりだすと熱中して、まあまあのにする
2. 少し無理かなと思われるくらいの目標をたてて頑張るほうだ
3. 自分がやったことがどんな効果をもたらしたか早く知りたい
4. 一緒に仕事するなら、気のあった人よりも有能な人を選ぶ人
5. 忙しいほうが何となく心が落ち着く
6. 人のやることをみていて自分ならもっと適切にやるのにとイライラすることがある
7. めったに弱音を吐くことはない
8. 困難に出会うと、やる気が湧（わ）く
9. 無理したり無駄なことをしていないかと考えることがよくある
10. 何かするときに、もっと良い別のやり方はないかと考える
11. 問題が起きたとき、なぜそうなったをじっくり考える
12. 何かするときに、ついでにできることはないかと考える
13. 自分の力をためすようなことをやるのが好きだ
14. 目新しいもの（こと）を見たり、したりするのが好きだ

合理的思考 $\alpha = .8161$

1. 無理したり無駄なことをしていないかと考えることがよくある
2. 何かするときに、もっと良い別のやり方はないかと考える
3. 問題が起きたとき、なぜそうなったをじっくり考える
4. 何かするときに、ついでにできることはないかと考える

アスピレーション $\alpha = .8354$

1. 遊びでも仕事でも、やりだすと熱中して、まあまあのにする

2. 少し無理かなと思われるくらいの目標をたてて頑張るほうだ
3. 自分がやったことがどんな効果をもたらしたか早く知りたい
4. 一緒に仕事するなら、気のあった人よりも有能な人を選ぶ
5. 忙しいほうが何となく心が落ち着く
6. 人のやることをみていて自分ならもっと適切にやるのにとイライラすることがある
7. めったに弱音を吐くことはない
8. 困難に出会うと、やる気が湧（わ）く
9. 自分の力をためすようなことをやるのが好きだ
10. 目新しいもの（こと）を見たり、したりするのが好きだ

スマート1 $\alpha = .8530$

1. なかなかの美人(男前)である
2. 知性がある（知的である）
3. 物覚えが早い
4. 記憶力がいい
5. 直感力やひらめきがある
6. 計算や数字に強い
7. 社会的地位が高い方だ

スマート2 $\alpha = .8567$

1. 知性がある（知的である）
2. 物覚えが早い
3. 記憶力がいい
4. 直感力やひらめきがある
5. 計算や数字に強い

スマート3 $\alpha = .8353$

1. 知性がある（知的である）
2. 物覚えが早い
3. 記憶力がいい
4. 直感力やひらめきがある
5. 計算や数字に強い
6. 外国語ができる
7. 地図があれば、初めてのところでも迷わず行け

る

スマート4 $\alpha = .4716$

1. 外国語ができる
2. 地図があれば、初めてのところでも迷わず行ける

スマート5 $\alpha = .8516$

1. 知性がある (知的である)
2. 物覚えが早い
3. 記憶力がいい
4. 直感力やひらめきがある
5. 計算や数字に強い
6. 外国語ができる
7. 地図があれば、初めてのところでも迷わず行ける
8. 手先が器用
9. ものを書くことが好き
10. 字が上手である

ナルシズム $\alpha = .5175$

1. なかなかの美人 (男前) である
2. 社会的地位が高い方だ

手先の器用さ $\alpha = .6271$

1. 手先が器用
2. ものを書くことが好き
3. 字が上手である

ナルシズム・スマート・器用 $\alpha = .8654$

1. なかなかの美人 (男前) である
2. 知性がある (知的である)
3. 物覚えが早い
4. 記憶力がいい
5. 直感力やひらめきがある
6. 計算や数字に強い
7. 社会的地位が高い方だ
8. 外国語ができる
9. 地図があれば、初めてのところでも迷わず行ける
10. 手先が器用
11. ものを書くことが好き
12. 字が上手である

積極的親密性 $\alpha = .8082$

1. 静かに腰を落ち着けて何かをするより、活動的に動き回るほうが自分に合っている
2. 自分が気に入ったもの (こと) は他人にもすすめたくなる
3. 他人の面倒をみるのが好きだ
4. 他人から何かと頼られるほうだ
5. 周囲の人が私に何を期待しているか、よくわかっている
6. 私は自分の周囲の人たちとうまくいっている
7. 私が誘えば、たいていの人は一緒に行動してくれる

融和的社会関係1 $\alpha = .8287$

1. 静かに腰を落ち着けて何かをするより、活動的に動き回るほうが自分に合っている
2. 自分が気に入ったもの (こと) は他人にもすすめたくなる
3. 他人の面倒をみるのが好きだ
4. 他人から何かと頼られるほうだ
5. 周囲の人が私に何を期待しているか、よくわかっている
6. 私は自分の周囲の人たちとうまくいっている
7. 私が誘えば、たいていの人は一緒に行動してくれる
8. 何かしたり、どこかへ出かける時に、誰かを誘うことが多い
9. 家にも落ちつかず、誰かを訪ねてみたくなる
10. 人との関係がうまくいくように自分を仕向けるのが上手である
11. わたしは聞き上手である
12. 人の良いところだけを見て付き合うようにしている

融和的社会関係2 $\alpha = .8119$

1. 静かに腰を落ち着けて何かをするより、活動的に動き回るほうが自分に合っている
2. 自分が気に入ったもの (こと) は他人にもすすめたくなる
3. 他人の面倒をみるのが好きだ
4. 他人から何かと頼られるほうだ
5. 周囲の人が私に何を期待しているか、よくわかっている
6. 私は自分の周囲の人たちとうまくいっている
7. 私が誘えば、たいていの人は一緒に行動してくれる
8. 何かしたり、どこかへ出かける時に、誰かを誘うことが多い
9. 家にも落ちつかず、誰かを訪ねてみたくなる

親和性 $\alpha = .5650$

1. 何かしたり、どこかへ出かける時に、誰かを誘うことが多い
2. 家にも落ちつかず、誰かを訪ねてみたくなる

折り合い1 $\alpha = .6100$

1. 人との関係がうまくいくように自分を仕向けるのが上手である
2. わたしは聞き上手である
3. 人の良いところだけを見て付き合うようにしている

折り合い2 $\alpha = .6761$

1. 人との関係がうまくいくように自分を仕向けるのが上手である

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

2. わたしは聞き上手である
3. 人の良いところだけを見て付き合うようにしている
4. 私は自分の周囲の人たちとうまくいっている

体力 $\alpha = .7749$

1. 病気になりにくい頑丈（がんじょう）な体をもっている
2. 歯が丈夫である
3. 年のわりには体が柔（やわ）らかい
4. 年のわりには歩くのが速い
5. 年のわりには持久力がある（スタミナがある）
6. 年のわりには食欲が旺盛（よく食べる）

信念 $\alpha = .7676$

1. 人のことなどかまっていられないと思うことがよくある
2. 自分が納得していれば他人がどう思うと気にならない
3. 人がどう言おうと自分は自分だと思っている
4. 他人の意見に左右されずに自分のやり方を通すことが多い
5. 自分で決めたことは、結果が悪くても後悔しない

自分に忠実（率直）1 $\alpha = .5547$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
3. 人からよく誤解される
4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある

自分に忠実（率直）2 $\alpha = .6348$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
3. 人からよく誤解される
4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
6. 大勢の人といっしょに何かするよりも、一人で好きなことをしているほうが楽しい
7. 気心の知れた親友が一人か二人いれば多くの友人はいらない

自分に忠実（率直）3 $\alpha = .6213$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話を

- しようとは思わない
3. 人からよく誤解される
4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
6. 思っていることや考えていることをすぐ口に出す方だ
7. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
8. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

自分に忠実（率直）4 $\alpha = .6719$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
3. 人からよく誤解される
4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
6. 大勢の人といっしょに何かするよりも、一人で好きなことをしているほうが楽しい
7. 気心の知れた親友が一人か二人いれば多くの友人はいらない
8. 思っていることや考えていることをすぐ口に出す方だ
9. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
10. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

自分に忠実（率直）5 $\alpha = .6748$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
3. 人からよく誤解される
4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
6. 大勢の人といっしょに何かするよりも、一人で好きなことをしているほうが楽しい
7. 気心の知れた親友が一人か二人いれば多くの友人はいらない
8. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
9. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

自分に忠実6 $\alpha = .5699$

1. そのときの気分や感情にまかせて行動すること

- が多い
2. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
 3. 人からよく誤解される
 4. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
 5. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
 6. この10年くらい、自分自身、人間が変わった

孤高 $\alpha = .5580$

1. 大勢の人といっしょに何かするよりも、一人で好きなことをしているほうが楽しい
2. 気心の知れた親友が一人か二人いれば多くの友人はいらない

譲歩しない (非妥協) $\alpha = .5272$

1. 相手が納得するまで説得しようとする
2. 相手が誰であろうとダメなものはダメという

個性が強い $\alpha = .4733$

1. 思っていることや考えていることをすぐ口に出す方だ
2. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
3. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

自己主張 1 $\alpha = .7768$

1. 人のことなどかまっていられないと思うことがよくある
2. 自分が納得していれば他人がどう思うと気にならない
3. 人がどう言おうと自分は自分だと思っている
4. 他人の意見に左右されずに自分のやり方を通すことが多い
5. 自分で決めたことは、結果が悪くても後悔しない
6. そのときの気分や感情にまかせて行動することが多い
7. 若者とは話が通じないから自分から進んで話をしようとは思わない
8. 人からよく誤解される
9. 嫌いな人と無理して付き合うようなことはしない
10. 他人に気を使ってばかりいられないと思うことがよくある
11. 大勢の人といっしょに何かするよりも、一人で好きなことをしているほうが楽しい
12. 気心の知れた親友が一人か二人いれば多くの友人はいらない
13. 相手が納得するまで説得しようとする
14. 相手が誰であろうとダメなものはダメという
15. 思っていることや考えていることをすぐ口に出

す方だ

16. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
17. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

自己主張 2 $\alpha = .7458$

1. 人のことなどかまっていられないと思うことがよくある
2. 自分が納得していれば他人がどう思うと気にならない
3. 人がどう言おうと自分は自分だと思っている
4. 他人の意見に左右されずに自分のやり方を通すことが多い
5. 自分で決めたことは、結果が悪くても後悔しない
6. 思っていることや考えていることをすぐ口に出す方だ
7. みんなと違うことを考えたり、することがよくある
8. 私の興味や考えは周囲の人たちとはだいぶちがう

計画性 $\alpha = .7881$

1. 何かするとき、準備や段取り (だんどり) をしっかりやる
2. 何をするにも早めに計画を立てるようにしている
3. 他の人に頼めることはしないようにしている
4. それが本当にやらなければならないことなのかをよく考える
5. 身のまわりはいつもきちんとしていている
6. 何をするにも、たいていは自分で決めている

孤立 $\alpha = .7627$

1. 何かあったとき、私を誘ってくれる人は少ない
2. 私にはたよりにできる人がいない
3. 私には腹をわって話ができる人がいない
4. 家族が、もっと自分を理解してくれたらと思う

自己統制 1 $\alpha = .7356$

1. 腹が立ったときでも、そのことを顔に表すことはない
2. やることが丁寧 (ていねい) である
3. 自制心が強い (自分をおさえたり、コントロールできる)
4. 物事を現実的に考える (ないものねだりをしない)
5. その場にあわせて自分を変えることができる

自己統制 2 $\alpha = .7453$

1. どんなことやどんな人が私を怒 (おこ) らせるかわかっている
2. 怒 (いか) りの気持ちを聞いてもらえる人がい

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

る

3. それが、人と争(あらず)うほどのものをじっくり考える
4. 怒りや腹立ちの気持ちを長く持ち続けることがない
5. 腹が立ったときでも、そのことを顔に表すことはない
6. やることが丁寧(ていねい)である
7. 自制心が強い(自分をおさえたり、コントロールできる)
8. 物事を現実的に考える(ないものねだりをしない)
9. その場にあわせて自分を変えることができる

怒りの処理1 $\alpha = .6056$

1. どんなことやどんな人が私を怒(おこ)らせるかわかっている
2. 怒(いか)りの気持ちを聞いてもらえる人がいる
3. それが、人と争(あらず)うほどのものをじっくり考える
4. 怒りや腹立ちの気持ちを長く持ち続けることがない

怒りの処理2 $\alpha = .6029$

1. どんなことやどんな人が私を怒(おこ)らせるかわかっている
2. 怒(いか)りの気持ちを聞いてもらえる人がいる
3. それが、人と争(あらず)うほどのものをじっくり考える
4. 怒りや腹立ちの気持ちを長く持ち続けることがない
5. 腹が立ったときでも、そのことを顔に表すことはない

支援資源 $\alpha = .8090$

1. 頼りになる家族をもっている
2. 頼りになる子どもをもっている
3. 頼りになる友人をもっている
4. 頼りになる親戚をもっている
5. 困ったときに相談できる人がいる

家族資源 $\alpha = .8172$

1. 頼りになる家族をもっている
2. 頼りになる子どもをもっている

家族外資源 $\alpha = .7787$

1. 頼りになる友人をもっている
2. 頼りになる親戚をもっている
3. 困ったときに相談できる人がいる

目標設定1 $\alpha = .7509$

1. 1週間ごとや1か月ごと、1年ごとの計画をつくっている

2. 1か月なり1年なり先に何かしようと考えていることがある
3. これから先、したことごとがたくさんある
4. 自分で決めた人生の目標を追い続けている
5. 専門的知識や技術を持った友人・知人がいる

目標設定2 $\alpha = .7408$

1. 1週間ごとや1か月ごと、1年ごとの計画をつくっている
2. 1か月なり1年なり先に何かしようと考えていることがある
3. これから先、したことごとがたくさんある
4. 自分で決めた人生の目標を追い続けている

目標設定3 $\alpha = .5657$

1. これから先、したことごとがたくさんある
2. 自分で決めた人生の目標を追い続けている
3. 専門的知識や技術を持った友人・知人がいる

計画づくり $\alpha = .8389$

1. 1週間ごとや1か月ごと、1年ごとの計画をつくっている
2. 1か月なり1年なり先に何かしようと考えていることがある

ストレス処理1 $\alpha = .7431$

1. 気分転換の方法をいくつももっている
2. 気がめいたときは、あれこれと考えないようにしている
3. 自分を励ましてくれる人をもっている
4. 楽しいことを思い浮かべてウキウキすることがよくある
5. 多くのことを背負い込まないようにしている
6. 悪いことがあっても、いつか良いこともあると思うから深刻になって悩むことがない

ストレス処理2 $\alpha = .7986$

1. 気分転換の方法をいくつももっている
2. 気がめいたときは、あれこれと考えないようにしている
3. 自分を励ましてくれる人をもっている
4. 楽しいことを思い浮かべてウキウキすることがよくある
5. 多くのことを背負い込まないようにしている
6. 悪いことがあっても、いつか良いこともあると思うから深刻になって悩むことがない
7. ちょっとしたせいたくや楽しみを自分に与えることがよくある
8. 自分の良い点について考えることがよくある
9. 自分を好きだと思えることがよくある

明朗快活1 $\alpha = .8421$

1. 他人や仕事に対して、まじめで真心がこもっている
2. 他の人の喜びや悲しみをいっしょに分ち合え

- る
3. 気持ちを素直に表現できる
 4. 人に優(やさ)しい
 5. ほがらかで活発
 6. 勇気がある

明朗快活 2 $\alpha = .8664$

1. 他人や仕事に対して、まじめで真心がこもっている
2. 他の人の喜びや悲しみをいっしょに分かち合える
3. 気持ちを素直に表現できる
4. 人に優(やさ)しい
5. ほがらかで活発
6. 勇気がある
7. 知らない人とも緊張しないで話ができる
8. 道を聞かれたら、わかりやすく教えることができる
9. 話し上手である
10. 大胆である(思いきったことができる)

依存性 $\alpha = .6764$

1. 自分が判断を下す前に、人に意見を求めることが多い
2. 自分の考えを強く主張できない
3. 人に批判されると、うろたえて落ち込む
4. 人の意見にまどわされて後悔することが多い

フランク $\alpha = .7736$

1. 知らない人とも緊張しないで話ができる
2. 道を聞かれたら、わかりやすく教えることができる
3. 話し上手である
4. 大胆である(思いきったことができる)

ノーツィ 1 $\alpha = .6238$

1. ふざけたり冗談をいって人を笑わせることが多い
2. どっちかというと下品な方だ
3. ちょっとしたイタズラやお茶目なことをするのが楽しい
4. ボルノ雑誌や成人向き映画に興味がある
5. 必要なものを手に入れるためには他人を傷つけることもある

ノーツィ 2 $\alpha = .6065$

1. ふざけたり冗談をいって人を笑わせることが多い
2. どっちかというと下品な方だ

3. ちょっとしたイタズラやお茶目なことをするのが楽しい
4. ボルノ雑誌や成人向き映画に興味がある

自分を大切にする 1 $\alpha = .7438$

1. ちょっとしたぜいたくや楽しみを自分に与えることがよくある
2. 自分の良い点について考えることがよくある
3. 自分を好きだと思ふことがよくある

自分を大切にする 2 $\alpha = .7619$

1. ちょっとしたぜいたくや楽しみを自分に与えることがよくある
2. 自分の良い点について考えることがよくある
3. 自分を好きだと思ふことがよくある
4. 楽しいことを思い浮かべてウキウキすることがよくある

自分を大切にする 3 $\alpha = .7798$

1. ちょっとしたぜいたくや楽しみを自分に与えることがよくある
2. 自分の良い点について考えることがよくある
3. 自分を好きだと思ふことがよくある
4. 楽しいことを思い浮かべてウキウキすることがよくある
5. 気分転換の方法をいくつももっている

おしゃれ $\alpha = .6900$

1. 料理が上手
2. 味にうるさい(グルメである)
3. おしゃれである

フォローワー $\alpha = .5693$

1. リーダーになるよりは、補佐役のほうが自分にあっている
2. 皆で何かするときには、役を与えられないほうがよい

マイペース $\alpha = .5552$

1. リーダーになるよりは、補佐役のほうが自分にあっている
2. 皆で何かするときには、役を与えられないほうがよい
3. なにごとによらず、一生懸命というのはきらいで、気ままにのんびりやる主義だ
4. 率先して何かをするということは自分の好みではない

いうまでもないことであるが、生活満足感や幸福感はコンピテンス/ライフスキルだけで規定されるわけではないから、幸福感が高いからといって日常的コンピテンスの水準が高いとは限らない。その意味では、日常的コンピテンスは、生活満足感や幸福感の十分条件ではあっても必要条件ではない

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表2. 諸尺度の基本統計量

	最小	最大	平均	標準 偏差	歪度	尖度	度数
年齢(歳)	65	99	73.6	6.3	0.84	0.18	2682
性別(男=1, 女=0)	0	1	0.4	0.5	0.23	-1.95	2709
年間世帯所得(万円)	100	2000	450.1	359.9	2.16	5.22	2404
肯定的老後生活観	9	27	16.2	4.6	0.42	-0.59	2460
否定的老後生活観	9	27	15.6	3.2	0.52	0.36	2455
ポジティブ・アフェクト	6	24	13.1	4.5	0.18	-0.76	2144
ネガティブ・アフェクト	8	32	15.0	5.3	0.70	-0.09	2202
日常活動老化度	8	24	11.9	3.3	1.11	1.05	2469
心理社会的老化度	11	33	19.7	4.5	0.38	-0.25	2456
合理的積極性	14	56	37.8	7.0	-0.41	0.92	2470
合理的思考	4	16	11.4	2.4	-0.52	0.87	2480
アスピレーション	10	40	26.4	5.2	-0.23	0.48	2468
スマート1	7	28	14.5	4.1	0.12	-0.20	2428
スマート2	6	20	11.4	2.9	0.35	-0.02	2255
スマート3	7	28	14.5	4.1	0.16	-0.07	2441
スマート4	2	8	3.6	1.3	0.57	-0.05	2444
スマート5	14	40	22.3	4.7	0.48	0.16	2199
ナルシズム	2	8	3.6	1.2	0.42	-0.17	2408
手先の器用さ	3	12	6.7	2.1	0.26	-0.34	2461
ナルシズム・スマート・器用	11	46	24.7	6.4	0.09	-0.14	2450
積極的親密性	7	28	17.5	3.9	-0.10	0.52	2473
融和的社会関係	12	48	29.3	5.8	-0.26	0.86	2473
親和性	2	8	4.2	1.3	0.23	0.06	2457
折り合い	3	12	7.6	1.9	-0.19	0.17	2491
体力	6	24	14.0	3.8	0.05	-0.16	2486
信念	5	20	12.7	3.0	0.03	0.07	2487
自分に忠実1	5	20	11.9	2.4	-0.11	0.71	2462
自分に忠実2	7	28	17.3	3.3	-0.22	0.73	2473
自分に忠実3	8	32	18.8	3.3	-0.10	0.99	2467
自分に忠実4	10	40	24.2	4.1	-0.18	0.99	2473
自分に忠実5	9	36	21.8	3.9	-0.18	0.88	2469
自分に忠実6	6	24	14.1	2.7	-0.13	0.69	2469
孤高	2	8	5.4	1.5	-0.15	-0.34	2495
譲歩しない(妥協しない)	2	8	4.9	1.4	0.05	-0.25	2492
個性が強い	3	12	6.9	1.6	0.19	0.33	2491
自己主張1	17	68	41.6	6.9	-0.30	1.03	2488
自己主張2	8	32	19.5	3.9	-0.03	0.43	2492
計画性	6	24	17.0	3.5	-0.49	0.91	2475
孤立	4	16	8.6	2.5	0.33	-0.04	2435
自己統制1	5	20	13.4	2.7	-0.43	0.77	2464
自己統制2	9	36	23.3	4.6	-0.61	0.83	2479
怒りの処理1	4	16	10.2	2.3	-0.49	0.61	2432
怒りの処理2	5	20	12.6	2.7	-0.45	0.70	2437
支援資源	5	20	13.9	3.4	-0.22	-0.11	2477
家族資源	2	8	5.9	1.7	-0.52	-0.28	2482
家族外資源	3	12	8.1	2.2	-0.32	-0.19	2479
目標設定1	5	20	11.2	3.1	0.16	-0.18	2426
目標設定2	4	16	8.9	2.6	0.22	-0.18	2424
目標設定3	3	12	7.0	2.0	0.03	-0.27	2459
計画づくり	2	8	4.2	1.6	0.32	-0.47	2411
ストレス処理1	6	24	16.0	3.2	-0.43	0.93	2456
ストレス処理2	9	36	23.3	4.5	-0.36	0.97	2443
明朗快活1	6	24	16.6	3.5	-0.38	0.80	2476
明朗快活2	10	40	26.2	5.3	-0.18	0.60	2474
依存性	4	16	9.0	2.2	0.12	0.50	2438
フランク	4	16	9.7	2.5	0.07	0.11	2486
ノーティ1	5	20	9.3	2.3	0.28	0.20	2412
ノーティ2	4	16	7.8	2.1	0.35	0.37	2421
自分を大切にする1	3	12	7.3	1.9	-0.02	0.12	2439
自分を大切にする2	4	16	9.7	2.5	-0.05	0.23	2439
自分を大切にする3	5	20	12.3	2.9	-0.04	0.27	2427
おしゃれ	3	12	6.8	2.2	0.12	-0.45	2456
フォロワー	2	8	5.5	1.4	-0.36	0.14	2480
マイペース	4	16	10.2	2.3	-0.27	0.43	2485

ということになる。

そのことを前提に、次には、作成した諸尺度で測定されるコンピテンス/ライフ・スキルの水準と高齢期における幸福感および老化度との関係を考察することとする。

3. 幸福感、老化度とコンピテンス/ライフスキル

(1) 諸尺度の基本統計量

表2は、欠損値を含むケースを除く基本的属性と諸尺度の基本統計量を示したものである。性別は、男性を1、女性を0とするダミー変数であり、平均値は男性の割合を示している。ここでは、回答者の40%が男性である。

歪度および尖度は、データの分布状態を図(ヒストグラム)で表示する代わりに記したものである。正規分布の場合は歪度は0であり、一般的に、歪度が1以上であると、そのデータの分布は正規分布とは有意な差があることを示す。尖度は、

データの分布のスノの広がりぐあいを示し、正規分布の尖度は0である。尖度が正值であれば正規分布よりもスノが長い分布となっていることを、負値であればスノが短い分布となっていることを表す。表1に見るように、「年間世帯所得」と「日常活動老化度」の歪度は1を越えているので正規分布とは有意な差があるが、他の変数は正規分布からそうかけ離れていないことがわかる。所得の分布は、一般に正規分布にはならず、最頻値が左に寄った右スノの長い分布になる。表1の「年間世帯所得」もそのことを示している。ちなみに、「年間世帯所得」と「日常活動老化度」を対数変換すると、歪度はそれぞれ0.25、0.52となって正規分布に近づくが、本稿では、それらに関しても対数変換しない値で分析する。

(2) 幸福感、老化度とコンピテンス/ライフ・スキルとの相関関係

表3～表8は、作成したコンピテンスの諸尺度によって測定された各コンピテンス/ライフ・スキルの得点と、老後生活観、アフエクト・バランス、老化度の得点との積率相関係数を係数の大きい順に並べたものである。

①肯定的老後生活観とコンピテンス/ライフスキル

肯定的老後生活観とコンピテンスの関係について見てみると(表3)、表の下段近くに並ぶ「フォロワー」から「自分に忠実(率直)」は5%水準で有意ではないことと、「依存性」と「孤立」の2項目が負の関係にあるほかは、他はいずれも0.1%水準で有意な正の相関関係を示している。それぞれのコンピテンスが高いほど老後生活観は肯定的であることがわかる。相関係数自体の大きさは0.374から0.057と大きくはないが、その中でも、「自分を大切にする」や「ストレス処理」、「支援資源」、「明朗快活」、「体力」、「目標設定」、「融和的社会関係」、「ナルシズム・スマート・器用」、「フランク」、「積極的親密性」、「折り合い」、「アスピレーション」、「自己統制」、「合理的積極性」、「おしゃれ」、「計画性」、「手先の器用さ」、「計画づくり」といったコンピテンスが肯定的老後生活観と相対的に強い正の相関関係にある。

②否定的老後生活観とコンピテンス/ライフ・スキル

否定的老後生活観との関係では(表4)、肯定的老後生活観と有意な負の相関関係にあった「依存性」と「孤立」が相対的に高い正の相関を示していることに加えて、「自分に忠実(率直)」や「自己主張」、「孤高」、「マイペース」、「信念」、「個性」、「フォロワー」、「親和性」が否定的老後生活観と正の相関関係にある。このうち、「自分に忠実」と「孤高」、「マイペース」は肯定的老後生活観とは有意な相関関係が認められなかったが、他はいずれも肯定的老後生活観と正の相関関係にあったものである。ただし、その関係は、否定的老後生活観との関係に比べると遙かに弱いものでしかなかった。したがって、これらの結果をみるかぎり、先に述べた自己志向仮説は支持されそうもない。

「計画性」や「合理的思考」、「ノーティ」、「折り合い」、「合理的積極性」、「融和的社会関係」、「自己統制2」、「譲歩しない」、「アスピレーション」は、否定的老後生活観と正負いずれにおいても有意な相関関係が認められない。

肯定的老後生活観と高い相関関係にあったコンピテンスの中で、「体力」、「ナルシズム・スマート・器用」、「スマート」、「ナルシズム」、「フランク」、「明朗快活」、「支援資源」(家族、家族外)、「目標設定」、「手先の器用さ」、「おしゃれ」、「計画作り」、「自分を大切にする」、「ストレス処理」、「積極的親密性」は、否定的老後生活観と有意な逆相関の関係にある。したがって、これらは、肯定

高齢者の日常的コンピテンシ／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表3. 肯定的老後生活観と諸尺度との相関係数

	クロンバックの α	相関係数	有意確率(両側)	N
自分を大切にする3	0.780	0.374	0.000	2352
ストレス処理2	0.799	0.365	0.000	2360
自分を大切にする2	0.762	0.346	0.000	2353
支援資源	0.809	0.342	0.000	2376
明朗快活2	0.866	0.339	0.000	2371
明朗快活1	0.842	0.337	0.000	2368
ストレス処理1	0.743	0.323	0.000	2363
体力	0.775	0.315	0.000	2379
自分を大切にする1	0.744	0.308	0.000	2350
目標設定1	0.751	0.304	0.000	2350
目標設定3	0.566	0.304	0.000	2364
家族資源	0.817	0.298	0.000	2367
家族外資源	0.779	0.294	0.000	2376
目標設定2	0.739	0.294	0.000	2342
融和的社会関係	0.829	0.264	0.000	2385
ナルシズム・スマート・器用	0.865	0.258	0.000	2363
スマート1	0.853	0.256	0.000	2344
フランク	0.774	0.256	0.000	2377
積極的親密性	0.808	0.252	0.000	2383
折り合い	0.610	0.238	0.000	2391
スマート3	0.835	0.237	0.000	2353
アスピレーション	0.835	0.235	0.000	2386
自己統制1(状況対応)	0.736	0.229	0.000	2368
合理的積極性	0.881	0.227	0.000	2389
おしゃれ	0.689	0.226	0.000	2359
計画性	0.788	0.225	0.000	2373
スマート5	0.852	0.217	0.000	2133
スマート2	0.857	0.216	0.000	2179
自己統制2	0.745	0.212	0.000	2386
手先の器用さ	0.627	0.210	0.000	2363
計画づくり	0.839	0.209	0.000	2337
ナルシズム	0.518	0.207	0.000	2329
怒りの処理2	0.603	0.162	0.000	2350
怒りの処理1	0.606	0.153	0.000	2334
合理的思考	0.816	0.141	0.000	2384
スマート4	0.472	0.130	0.000	2353
譲歩しない(妥協しない)	0.527	0.119	0.000	2390
自己主張2	0.746	0.090	0.000	2396
信念	0.768	0.082	0.000	2395
親和性	0.565	0.074	0.000	2374
自己主張1	0.777	0.070	0.001	2398
個性が強い	0.473	0.063	0.002	2396
ノーティ2	0.607	0.059	0.004	2341
フォロワー	0.569	0.057	0.005	2382
ノーティ1	0.625	0.036	0.083	2338
マイペース	0.555	0.024	0.241	2387
自分に忠実(率直)3	0.621	0.009	0.644	2386
自分に忠実(率直)4	0.672	0.000	0.991	2387
自分に忠実(率直)5	0.675	-0.022	0.277	2386
孤高	0.558	-0.033	0.105	2391
自分に忠実(率直)2	0.635	-0.036	0.075	2385
自分に忠実(率直)1	0.555	-0.038	0.065	2381
自分に忠実(率直)6	0.570	-0.038	0.062	2384
依存性	0.676	-0.084	0.000	2349
孤立	0.763	-0.209	0.000	2348

表4. 否定的老後生活観と諸尺度との相関係数

	クロンバックの α	相関係数	有意確率(両側)	N
自分に忠実(率直)6	0.570	0.266	0.000	2377
自分に忠実(率直)2	0.635	0.259	0.000	2382
依存性	0.676	0.251	0.000	2345
自分に忠実(率直)5	0.675	0.246	0.000	2381
自分に忠実(率直)4	0.672	0.236	0.000	2381
自分に忠実(率直)1	0.555	0.236	0.000	2373
自分に忠実(率直)3	0.621	0.219	0.000	2380
孤立	0.763	0.204	0.000	2344
自己主張1	0.777	0.183	0.000	2392
孤高	0.558	0.173	0.000	2384
マイペース	0.555	0.117	0.000	2384
自己主張2	0.746	0.109	0.000	2390
信念	0.768	0.096	0.000	2389
個性が強い	0.473	0.083	0.000	2388
フォロワー	0.569	0.077	0.000	2379
親和性	0.565	0.060	0.003	2366
怒りの処理1	0.606	0.047	0.024	2331
怒りの処理2	0.603	0.035	0.094	2345
計画性	0.788	0.021	0.298	2363
合理的思考	0.816	0.021	0.307	2376
ノーティ2	0.607	0.008	0.710	2336
ノーティ1	0.625	0.003	0.879	2332
折り合い	0.610	-0.016	0.447	2383
合理的積極性	0.881	-0.016	0.442	2379
融和的社会関係	0.829	-0.024	0.252	2377
自己統制2	0.745	-0.029	0.156	2378
譲歩しない(妥協しない)	0.527	-0.032	0.122	2384
アスピレーション	0.835	-0.034	0.095	2377
積極的親密性	0.808	-0.045	0.027	2377
自分を大切にする1	0.744	-0.048	0.020	2345
自分を大切にする2	0.762	-0.056	0.007	2349
ストレス処理2	0.799	-0.076	0.000	2355
ストレス処理1	0.743	-0.080	0.000	2359
自分を大切にする3	0.780	-0.091	0.000	2345
計画づくり	0.839	-0.093	0.000	2328
自己統制1(状況対応)	0.736	-0.104	0.000	2362
目標設定2	0.739	-0.108	0.000	2333
明朗快活1	0.842	-0.112	0.000	2368
目標設定3	0.566	-0.115	0.000	2358
家族外資源	0.779	-0.120	0.000	2366
おしゃれ	0.689	-0.121	0.000	2354
手先の器用さ	0.627	-0.122	0.000	2354
家族資源	0.817	-0.129	0.000	2360
目標設定1	0.751	-0.130	0.000	2343
支援資源	0.809	-0.136	0.000	2369
スマート5	0.852	-0.138	0.000	2131
スマート4	0.472	-0.142	0.000	2348
明朗快活2	0.866	-0.143	0.000	2369
スマート2	0.857	-0.145	0.000	2180
フランク	0.774	-0.147	0.000	2373
ナルシズム	0.518	-0.152	0.000	2325
スマート1	0.853	-0.177	0.000	2343
スマート3	0.835	-0.178	0.000	2351
ナルシズム・スマート・器用	0.865	-0.184	0.000	2359
体力	0.775	-0.230	0.000	2373

表5. ポジティブ・アフェクトと諸尺度との相関係数

	クロン バック の α	相関 係数	有意 確率 (両側)	N
自分を大切にする 3	0.780	0.442	0.000	2066
目標設定 1	0.751	0.426	0.000	2069
目標設定 3	0.566	0.418	0.000	2074
自分を大切にする 2	0.762	0.417	0.000	2068
明朗快活 2	0.866	0.414	0.000	2073
ストレス処理 2	0.799	0.413	0.000	2070
アスピレーション	0.835	0.407	0.000	2093
明朗快活 1	0.842	0.403	0.000	2074
合理的積極性	0.881	0.401	0.000	2093
積極的親密性	0.808	0.399	0.000	2088
融和的社会関係	0.829	0.397	0.000	2088
目標設定 2	0.739	0.395	0.000	2061
自分を大切にする 1	0.744	0.383	0.000	2062
ナルシズム・スマート・器用	0.865	0.359	0.000	2076
家族外資源	0.779	0.353	0.000	2070
ストレス処理 1	0.743	0.345	0.000	2074
支援資源	0.809	0.341	0.000	2071
フランク	0.774	0.325	0.000	2075
スマート 1	0.853	0.325	0.000	2069
手先の器用さ	0.627	0.324	0.000	2063
体力	0.775	0.319	0.000	2082
計画づくり	0.839	0.318	0.000	2059
スマート 3	0.835	0.315	0.000	2072
スマート 5	0.852	0.310	0.000	1881
おしゃれ	0.689	0.305	0.000	2070
自己統制 2	0.745	0.301	0.000	2086
折り合い	0.610	0.291	0.000	2088
合理的思考	0.816	0.281	0.000	2090
計画性	0.788	0.273	0.000	2077
自己統制 1 (状況対応)	0.736	0.273	0.000	2071
怒りの処理 1	0.606	0.263	0.000	2051
スマート 2	0.857	0.254	0.000	1926
ナルシズム	0.518	0.254	0.000	2055
怒りの処理 2	0.603	0.248	0.000	2063
	0.527	0.243	0.000	2090
家族資源	0.817	0.217	0.000	2065
スマート 4	0.472	0.193	0.000	2072
個性が強い	0.473	0.160	0.000	2095
親和性	0.565	0.139	0.000	2081
ノーティ 2	0.607	0.127	0.000	2063
自己主張 1	0.777	0.124	0.000	2098
自己主張 2	0.746	0.122	0.000	2095
ノーティ 1	0.625	0.099	0.000	2061
自分に忠実 (率直) 3	0.621	0.079	0.000	2090
信念	0.768	0.076	0.000	2094
自分に忠実 (率直) 4	0.672	0.053	0.016	2091
フォロワー	0.569	0.033	0.126	2090
自分に忠実 (率直) 5	0.675	0.017	0.435	2090
自分に忠実 (率直) 6	0.570	0.013	0.562	2086
自分に忠実 (率直) 1	0.555	-0.007	0.740	2084
自分に忠実 (率直) 2	0.635	-0.012	0.589	2090
依存性	0.676	-0.019	0.381	2063
マイペース	0.555	-0.031	0.160	2096
孤高	0.558	-0.046	0.037	2092
孤立	0.763	-0.207	0.000	2067

表6. ネガティブ・アフェクトと諸尺度との相関係数

	クロン バック の α	相関 係数	有意 確率 (両側)	N
依存性	0.676	0.295	0.000	2125
自分に忠実 (率直) 6	0.570	0.250	0.000	2146
自分に忠実 (率直) 5	0.675	0.235	0.000	2150
自分に忠実 (率直) 4	0.672	0.235	0.000	2151
自分に忠実 (率直) 2	0.635	0.229	0.000	2150
自分に忠実 (率直) 3	0.621	0.220	0.000	2150
自分に忠実 (率直) 1	0.555	0.217	0.000	2144
孤立	0.763	0.194	0.000	2127
自己主張 1	0.777	0.151	0.000	2159
孤高	0.558	0.151	0.000	2152
個性が強い	0.473	0.135	0.000	2158
親和性	0.565	0.110	0.000	2140
マイペース	0.555	0.102	0.000	2157
怒りの処理 1	0.606	0.087	0.000	2116
自己主張 2	0.746	0.076	0.000	2155
怒りの処理 2	0.603	0.058	0.008	2126
ノーティ 1	0.625	0.041	0.060	2126
フォロワー	0.569	0.036	0.092	2150
ノーティ 2	0.607	0.025	0.246	2128
信念	0.768	0.024	0.260	2154
自分を大切にする 1	0.744	-0.006	0.783	2122
融和的社会関係	0.829	-0.011	0.597	2147
合理的思考	0.816	-0.013	0.538	2150
おしゃれ	0.689	-0.014	0.525	2133
自己統制 2	0.745	-0.018	0.402	2148
自分を大切にする 2	0.762	-0.021	0.330	2128
合理的積極性	0.881	-0.024	0.258	2154
積極的親密性	0.808	-0.028	0.201	2147
アスピレーション	0.835	-0.028	0.188	2154
譲歩しない (妥協しない)	0.527	-0.042	0.052	2152
計画性	0.788	-0.048	0.026	2137
ナルシズム	0.518	-0.052	0.017	2119
自分を大切にする 3	0.780	-0.063	0.003	2126
折り合い	0.610	-0.066	0.002	2148
ストレス処理 2	0.799	-0.083	0.000	2132
目標設定 3	0.566	-0.092	0.000	2139
手先の器用さ	0.627	-0.102	0.000	2126
家族外資源	0.779	-0.103	0.000	2134
家族資源	0.817	-0.103	0.000	2128
目標設定 2	0.739	-0.104	0.000	2123
自己統制 1 (状況対応)	0.736	-0.107	0.000	2133
計画づくり	0.839	-0.109	0.000	2120
目標設定 1	0.751	-0.112	0.000	2133
スマート 5	0.852	-0.115	0.000	1936
支援資源	0.809	-0.117	0.000	2135
明朗快活 1	0.842	-0.120	0.000	2137
ストレス処理 1	0.743	-0.123	0.000	2134
スマート 2	0.857	-0.123	0.000	1982
スマート 1	0.853	-0.126	0.000	2130
フランク	0.774	-0.143	0.000	2137
明朗快活 2	0.866	-0.144	0.000	2136
ナルシズム・スマート・器用	0.865	-0.147	0.000	2138
スマート 4	0.472	-0.153	0.000	2132
スマート 3	0.835	-0.163	0.000	2133
体力	0.775	-0.230	0.000	2145

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表7. 日常活動老化度と諸尺度との相関係数

	クロンバックの α	相関係数	有意確率(両側)	N
孤立	0.763	0.251	0.000	2361
自分に忠実(率直) 2	0.635	0.229	0.000	2399
自分に忠実(率直) 5	0.675	0.222	0.000	2399
自分に忠実(率直) 6	0.570	0.215	0.000	2395
自分に忠実(率直) 4	0.672	0.215	0.000	2399
自分に忠実(率直) 1	0.555	0.213	0.000	2391
自分に忠実(率直) 3	0.621	0.188	0.000	2397
孤高	0.558	0.186	0.000	2401
依存性	0.676	0.154	0.000	2363
自己主張 1	0.777	0.141	0.000	2412
自己主張 2	0.746	0.108	0.000	2409
マイペース	0.555	0.094	0.000	2399
信念	0.768	0.092	0.000	2408
個性が強い	0.473	0.083	0.000	2403
フォロワー	0.569	0.025	0.219	2396
ノーティ 1	0.625	-0.002	0.934	2348
怒りの処理 1	0.606	-0.018	0.384	2344
ノーティ 2	0.607	-0.026	0.214	2352
怒りの処理 2	0.603	-0.027	0.196	2359
親和性	0.565	-0.042	0.042	2384
家族資源	0.817	-0.063	0.002	2375
合理的思考	0.816	-0.105	0.000	2393
譲歩しない(妥協しない)	0.527	-0.107	0.000	2402
ナルシズム	0.518	-0.110	0.000	2339
自己統制 2	0.745	-0.115	0.000	2393
自分を大切にする 1	0.744	-0.116	0.000	2356
折り合い	0.610	-0.120	0.000	2399
アスピレーション	0.835	-0.133	0.000	2395
合理的積極性	0.881	-0.133	0.000	2396
自分を大切にする 2	0.762	-0.136	0.000	2360
スマート 2	0.857	-0.140	0.000	2190
スマート 5	0.852	-0.143	0.000	2142
計画づくり	0.839	-0.149	0.000	2344
計画性	0.788	-0.151	0.000	2377
ストレス処理 1	0.743	-0.158	0.000	2376
ストレス処理 2	0.799	-0.159	0.000	2371
自分を大切にする 3	0.780	-0.162	0.000	2360
融和的社会関係	0.829	-0.163	0.000	2395
目標設定 2	0.739	-0.168	0.000	2351
積極的親密性	0.808	-0.171	0.000	2394
支援資源	0.809	-0.171	0.000	2382
目標設定 3	0.566	-0.174	0.000	2370
スマート 4	0.472	-0.176	0.000	2365
目標設定 1	0.751	-0.185	0.000	2359
自己統制 1(状況対応)	0.736	-0.192	0.000	2377
スマート 1	0.853	-0.196	0.000	2357
おしゃれ	0.689	-0.200	0.000	2374
フランク	0.774	-0.202	0.000	2386
家族外資源	0.779	-0.213	0.000	2378
手先の器用さ	0.627	-0.217	0.000	2367
スマート 3	0.835	-0.221	0.000	2366
明朗快活 1	0.842	-0.224	0.000	2378
ナルシズム・スマート・器用	0.865	-0.232	0.000	2374
明朗快活 2	0.866	-0.247	0.000	2380
体力	0.775	-0.317	0.000	2389

表8. 心理社会的老化度と諸尺度との相関係数

	クロンバックの α	相関係数	有意確率(両側)	N
依存性	0.676	0.260	0.000	2349
自分に忠実(率直) 6	0.570	0.254	0.000	2380
自分に忠実(率直) 2	0.635	0.239	0.000	2383
自分に忠実(率直) 4	0.672	0.234	0.000	2383
自分に忠実(率直) 5	0.675	0.234	0.000	2383
自分に忠実(率直) 1	0.555	0.219	0.000	2376
自分に忠実(率直) 3	0.621	0.213	0.000	2383
孤立	0.763	0.202	0.000	2345
孤高	0.558	0.173	0.000	2387
自己主張 1	0.777	0.170	0.000	2396
個性が強い	0.473	0.119	0.000	2393
自己主張 2	0.746	0.108	0.000	2395
マイペース	0.555	0.105	0.000	2388
親和性	0.565	0.093	0.000	2368
信念	0.768	0.071	0.001	2393
フォロワー	0.569	0.065	0.002	2383
怒りの処理 1	0.606	0.053	0.011	2334
怒りの処理 2	0.603	0.049	0.017	2349
合理的思考	0.816	0.030	0.147	2378
合理的積極性	0.881	0.020	0.338	2381
アスピレーション	0.835	0.019	0.350	2379
ノーティ 1	0.625	0.018	0.376	2336
融和的社会関係	0.829	0.018	0.375	2379
ノーティ 2	0.607	0.018	0.383	2340
折り合い	0.610	0.014	0.487	2383
譲歩しない(妥協しない)	0.527	0.004	0.844	2389
計画性	0.788	0.000	0.982	2364
積極的親密性	0.808	-0.006	0.766	2379
自己統制 2	0.745	-0.020	0.327	2382
自分を大切にする 2	0.762	-0.036	0.080	2349
自分を大切にする 1	0.744	-0.037	0.071	2346
家族資源	0.817	-0.046	0.027	2365
ストレス処理 2	0.799	-0.059	0.004	2359
自分を大切にする 3	0.780	-0.067	0.001	2349
ストレス処理 1	0.743	-0.067	0.001	2361
支援資源	0.809	-0.068	0.001	2372
家族外資源	0.779	-0.073	0.000	2371
目標設定 2	0.739	-0.077	0.000	2336
目標設定 3	0.566	-0.080	0.000	2361
自己統制 1(状況対応)	0.736	-0.085	0.000	2368
計画づくり	0.839	-0.087	0.000	2332
手先の器用さ	0.627	-0.102	0.000	2356
目標設定 1	0.751	-0.102	0.000	2346
ナルシズム	0.518	-0.104	0.000	2328
おしゃれ	0.689	-0.104	0.000	2358
明朗快活 1	0.842	-0.105	0.000	2370
フランク	0.774	-0.127	0.000	2377
スマート 5	0.852	-0.129	0.000	2133
明朗快活 2	0.866	-0.134	0.000	2372
スマート 2	0.857	-0.149	0.000	2181
スマート 1	0.853	-0.178	0.000	2347
スマート 4	0.472	-0.187	0.000	2352
ナルシズム・スマート・器用	0.865	-0.191	0.000	2364
体力	0.775	-0.202	0.000	2378
スマート 3	0.835	-0.212	0.000	2356

的後生活観に促進的に作用しているコンピテンス/ライフ・スキルとみることができる。

③アフェクト・バランスとコンピテンス/ライフ・スキル

アフェクトバランスとコンピテンスの関係も以上の結果とほぼ同様である。ポジティブ・アフェクトと正の相関関係にあるコンピテンスを係数の大きい順にあげると、「自分を大切にする」、「目標設定」、「明朗快活」、「ストレス処理」、「アスピレーション」、「合理的積極性」、「積極的親密性」、「融和的社会関係」、「ナルシズム・スマート・器用」、「家族外資源」、「支援資源」、「フランク」、「スマート」、「手先の器用さ」、「体力」、「計画づくり」、「おしゃれ」、「自己統制」、「折り合い」、「合理的思考」、「計画性」、「怒りの処理」、「譲歩しない(妥協しない)」、「家族資源」、「個性」、「親和性」、「ノーティ」、「自己主張」、「信念」であり、「自分に忠実」、「依存性」、「マイペース」はポジティブ・アフェクトと正負いずれにおいても有意な関係は認められない(表5)。有意な正の相関関係にあるもののうち、「個性」、「親和性」、「怒りの処理」はネガティブ・アフェクトとも有意な相関関係にあるが、他はネガティブ・アフェクトとは逆相関の関係にあるか、有意な相関関係が認められない(表6)。

ネガティブ・アフェクトと相体的に強い正の相関関係にあるのは、「依存性」、「自分に忠実」、「孤立」、「自己主張1」、「孤高」、「マイペース」である。これらは、否定的後生活観とも同様に強い順相関を示していたものであり、この結果も、先に述べた自己志向仮説を反証するものといえそうである。

④老化度とコンピテンス/ライフ・スキル

主観的老化度との関係を見ると(表7、表8)、否定的後生活観やネガティブ・アフェクトと順相関の関係にあるコンピテンス/ライフ・スキルの多くが日常的老化度および心理社会的老化度とも順相関の関係にあり、他のコンピテンスは逆相関にあるか有意な相関が認められない。日常活動老化度と心理社会的老化度に共通して順相関の関係にあるのは、「依存性」、「自分に忠実」、「孤立」、「孤高」、「自己主張」、「個性」、「マイペース」、「信念」である。「親和性」は、日常活動老化度とは逆相関の関係にあるが、心理社会的老化度とは順相関の関係にある。「フォロワー」と「怒りの処理」は、日常活動老化度とは有意な相関は認められないが、心理社会的老化度とは順相関の関係にある。

日常活動老化度にしる心理社会的老化度にしる、老化度と相体的に強い相関関係にあるコンピテンス/ライフ・スキルは、自己志向仮説でいう生活スタイルや生き方を促進する要因になっているとみることができる。また、逆に、老化度の水準の高さが、そうしたコンピテンス/ライフスキルを発達させ、そのことが自己志向型の生活スタイルや生き方をとらせるようになっていくと見ることができよう。

ところで、本稿では、これまでに、例えば、「明朗快活」というコンピテンスを測定する尺度として、「明朗快活1」や「明朗快活2」といった2つの尺度を提案してきた。また、「合理的積極性」のように、「合理的思考」と「アスピレーション」といった1次元尺度を内包する2次元尺度もを提案してきた。いずれも、共分散構造分析による適合度やクロンバックの α に基づく信頼性分析による内部一貫性からいって、それら類似尺度や多次元尺度のいずれもがそれぞれのコンピテンス/ライフ・スキルを測定する尺度として概ね有効であると考えられる。ところが、あるコンピテンスを測定しようとする場合、類似尺度が複数個あると、そのうちのどれを最適な尺度として選択するかが問題になる。

モデルとデータとの適合度を判定する指標の値や α 値による信頼性係数は、ある一定の水準に達していれば、そのモデルや尺度が良好であると判断する目安あるいは下限値を表示するものである。し

高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

たがって、あるコンピテンス／ライフ・スキルを測定する尺度として類似した尺度があった場合、それらの値がある水準に達していさえすれば、それら値の大小に拘ることなく、いずれの尺度を用いてもよいことになる。より一般的に言えば、ある対象を測定するための尺度が複数あった場合に、それらがいずれも測定尺度としての条件を満たしている有効な尺度であると判断されれば、指標や係数の値の大小をモデルや尺度の優劣の比較や選択の基準にする必要はないということである。

そうした場合、どの尺度を選択するかは、それら尺度を構成する項目の妥当性や必要性、重要性によって判断することになる。たとえば、A, B, C, D, Eの5つの項目で構成される尺度もA, B, C, D, Fで構成される尺度も同じくXという対象を測定する尺度であり、いずれも有効な尺度であったとする。このとき、Xを測定するには項目EよりもFの方が妥当性や必要性、重要性が高いと考えた場合、後者の尺度を選択することになるということである。

類似尺度を前にしたときにいずれの尺度を選択するかを検討する際に、尺度の反応度というか鋭敏度や測定力あるいは切れ味のようなものを確かめることができれば便利である。本稿で試みた老後生活観尺度やアフェクト・バランス尺度、老化度尺度との相関分析は、そうした要請に応える一つの方法でもあると考える。

たとえば、「自分を大切にする」というコンピテンス／ライフ・スキルに関して言えば、肯定的老後生活観およびポジティブ・アフェクトと正の相関関係が認められ、いずれとの関係においても、「自分を大切にする3」の相関係数が「自分を大切にする1」や「自分を大切にする2」のそれよりも大きい。この場合には、3つの類似尺度のうち、「自分を大切にする3」が老後の幸福感に最も反応度が高い尺度ということになる。ただし、そうした検討も尺度選択の絶対的方法というわけではないし、上で述べたように、そうして選択された尺度が他の類似尺度よりも優れていることを保証するわけではない。

4. コンピテンス／ライフ・スキルを予測変数とする老後幸福感の重回帰分析

種々のコンピテンス／ライフ・スキルが老後生活観尺度やアフェクト・バランス尺度で測定される幸福感や老化度と相関があり、それぞれのコンピテンス／ライフ・スキルによって、その相関の大きさに違いがあることが明らかになったが、そこでの相関の大きさには、取り上げたコンピテンス／ライフ・スキル相互の影響が含まれており、個々のコンピテンス／ライフ・スキルそれ自体の相関の大きさではない。

たとえば、あるコンピテンス／ライフ・スキルが肯定的老後生活観とどの程度に関連を持っているかを知らうとするならば、他のコンピテンス／ライフ・スキルの影響を除去しなければならない。そこで、本稿では、幸福感や老化度を従属変数とし、コンピテンス／ライフ・スキルを独立変数とする重回帰分析を試み、それぞれのコンピテンス／ライフ・スキルが幸福感や老化度にどの程度の影響を及ぼしているかを探ってみることにする。

表9は、重回帰分析に用いた諸変数の平均と標準偏差を示したものである。ここでは、各コンピテンスに加えて、年齢と性別、経済的豊かさを示す変数として年間所得を説明変数に取り上げた。分析には、取り上げた諸変数の全てに欠損値を含まない完全回答1,646ケースである。なお、ここで用いるコンピテンス／ライフ・スキル尺度および幸福感尺度、老化度尺度はすべて1次元尺度であり、先

表9. 重回帰分析に用いた変数

	平均	標準 偏差	N
肯定的老後生活観	16.3	4.5	1649
否定的老後生活観	15.6	3.1	1649
ポジティブ・アフェクト	13.2	4.4	1649
ネガティブ・アフェクト	15.0	5.3	1649
日常活動老化度	11.9	3.3	1649
心理社会的老化度	19.6	4.5	1649
年齢(歳)	72.6	5.8	1649
性別(男=1, 女=0)	0.5	0.5	1649
年間世帯所得(万円)	477.5	372.9	1649
合理的思考	11.5	2.3	1649
アスピレーション	26.5	4.9	1649
ナルシズム	3.7	1.2	1649
スマート3	14.9	4.0	1649
手先の器用さ	6.8	2.1	1649
積極的親密性	17.7	3.6	1649
親和性	4.2	1.2	1649
折り合い	7.7	1.7	1649
体力	14.2	3.6	1649
信念	12.8	2.8	1649
自分に忠実(率直)1	12.1	2.2	1649
孤高	5.5	1.4	1649
譲歩しない(妥協しない)	4.9	1.3	1649
個性が強い	7.0	1.5	1649
計画性	17.1	3.1	1649
孤立	8.6	2.4	1649
自己統制1	13.6	2.5	1649
家族資源	5.9	1.6	1649
家族外資源	8.1	2.1	1649
目標設定2	9.1	2.5	1649
ストレス処理	16.2	2.9	1649
明朗快活1	16.7	3.2	1649
依存性	9.1	2.1	1649
フランク	9.9	2.4	1649
ノーツィ1	9.4	2.3	1649
自分を大切にする1	7.3	1.8	1649
おしゃれ	6.9	2.1	1649
怒りの処理1	10.3	2.1	1649
マイペース	10.2	2.1	1649

にみた各コンピテンスの類似尺度に関しては、ある尺度を構成する項目が他の尺度の項目として含まれていない尺度を用いた。そのことを明示するために、多少違和感を与えることと思われるが、変数名はこれまでの表記通りにしておく。

類似尺度間には、当然のことながら高い相関関係がある。類似尺度であっても、個々に取り上げる場合には問題がないが、そうした高い相関関係にある類似尺度を重回帰分析における独立変数にすると、いわゆる多重共線性を引き起こす。類似尺度に関しては、それらのうちのひとつだけを取り上げるのは、そのことを考慮したためである。表10は、コンピテンス/ライフ・スキル尺度の得点間の相関係数である。

(1) 一括投入法による重回帰分析

表11～表16は、全ての変数を同時に投入する変数一括投入法(強制投入法)による重回帰分析の結果を示したものである。

表中の「共線性の統計量」欄の「許容度」とは、その変数が、投入されている他の独立変数によって説明されない分散の割合であり、 $(1 - R_j^2)$ で計算される(R_j^2 は、 X_j を従属変数とする重相関係数の2乗)。ごく簡単に言えば、他の独立変数と関連していない度合いとみなしてもよい。この値が0に近いと多重共線性を引き起こし、回帰係数の標準誤差が大きくなる。

VIF(Variance Inflation Factor)は許容度の逆数($VIF = 1 / (1 - R_j^2)$)で、分散拡大係数または変動インフレーション因子と呼ばれる。これが大きくなると回帰係数の分散が増大して推定の正確性が大きく低下する。一般に、この値が2を超える場合は重大な多重共線性問題が生じているとみなされる。

全ての変数を同時に投入したこれら重回帰モデルでは、老後生活観および老化度のいずれにおいても係数が有意ではない変数が多い。また、VIFの値が2を越える変数も含まれているので、これらのモデルは適切ではない。そこで、次に、幸福感や老化度に有意な影響を与えているコンピテンス/ライフ・スキルで構成されるモデルを探索するためにステップワイズ法による重回帰分析を試みた。なお、各ステップにおける変数投入の基準はF値の確率0.05、変数除去の基準は同0.1である。

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表10.変数間の積率相関係数

年齢	性別	年間世帯所得	肯定的老後生活観	否定的老後生活観	ポジティブ・アフェクト	ネガティブ・アフェクト	日常活動老化度	心理社会的老化度	合理的思考	アスビレーション	ナルシズム	スマート3	手先の器用さ	積極的親密性	親和性	折り合い	体力	信念
1.00																		
-0.02	1.00																	
0.08	0.08	1.00																
-0.01	-0.04	0.19	1.00															
0.11	-0.05	-0.10	-0.33	1.00														
-0.08	-0.05	0.15	0.45	-0.14	1.00													
0.03	-0.15	-0.03	-0.31	0.55	0.06	1.00												
0.22	-0.05	-0.04	-0.30	0.49	-0.20	0.47	1.00											
0.16	-0.07	-0.04	-0.20	0.60	-0.05	0.54	0.65	1.00										
-0.11	0.07	0.05	0.15	0.03	0.27	-0.01	-0.09	0.04	1.00									
-0.09	0.09	0.05	0.24	-0.04	0.41	-0.02	-0.12	0.03	0.61	1.00								
0.03	0.13	0.22	0.21	-0.15	0.26	-0.06	-0.11	-0.11	0.13	0.24	1.00							
-0.03	0.16	0.15	0.25	-0.18	0.31	-0.16	-0.22	-0.22	0.26	0.38	0.56	1.00						
-0.03	0.00	0.07	0.20	-0.13	0.31	-0.10	-0.20	-0.12	0.23	0.33	0.40	0.55	1.00					
-0.09	-0.05	0.10	0.28	-0.05	0.40	-0.02	-0.15	0.00	0.40	0.56	0.30	0.32	0.27	1.00				
-0.06	-0.12	0.02	0.09	0.04	0.14	0.11	-0.04	0.10	0.13	0.20	0.16	0.08	0.06	0.45	1.00			
-0.07	-0.10	0.02	0.24	-0.03	0.28	-0.06	-0.14	0.00	0.40	0.46	0.20	0.29	0.25	0.48	0.25	1.00		
-0.06	-0.02	0.12	0.32	-0.24	0.32	-0.22	-0.33	-0.20	0.18	0.33	0.29	0.38	0.32	0.32	0.08	0.24	1.00	
-0.01	0.08	0.02	0.08	0.05	0.06	0.01	0.09	0.05	0.16	0.32	0.08	0.17	0.04	0.12	0.02	0.14	0.13	1.00
-0.05	0.06	0.00	-0.06	0.24	-0.01	-0.01	0.24	0.26	0.20	0.24	0.03	-0.03	-0.04	0.10	0.11	0.13	0.01	0.33
0.03	-0.04	-0.03	-0.06	0.17	-0.08	0.15	0.21	0.18	0.14	0.13	-0.07	-0.03	-0.01	-0.07	-0.10	0.09	-0.05	0.22
-0.16	0.13	0.07	0.14	-0.05	0.25	-0.05	-0.11	-0.01	0.29	0.42	0.14	0.27	0.19	0.31	0.14	0.21	0.18	0.27
-0.06	0.07	0.04	0.02	0.09	0.15	0.15	0.11	0.14	0.16	0.28	0.05	0.16	0.10	0.19	0.12	0.07	0.10	0.36
-0.09	0.04	0.00	0.23	-0.02	0.27	-0.08	-0.16	-0.01	0.52	0.48	0.14	0.32	0.25	0.37	0.09	0.38	0.25	0.19
0.04	0.15	-0.08	-0.26	0.23	-0.21	0.21	0.30	0.23	0.03	0.03	-0.06	-0.07	-0.10	-0.14	-0.06	-0.11	-0.11	0.22
-0.05	-0.05	0.04	0.25	-0.11	0.28	-0.13	-0.21	-0.11	0.37	0.37	0.28	0.38	0.34	0.37	0.10	0.44	0.28	0.07
0.06	-0.05	0.21	0.32	-0.13	0.22	-0.10	-0.06	-0.03	0.13	0.15	0.12	0.12	0.11	0.14	0.04	0.17	0.15	0.00
-0.05	-0.17	0.10	0.31	-0.15	0.35	-0.12	-0.24	-0.10	0.17	0.20	0.21	0.22	0.21	0.36	0.23	0.28	0.26	-0.05
-0.15	0.07	0.10	0.30	-0.13	0.41	-0.12	-0.21	-0.10	0.34	0.43	0.30	0.41	0.35	0.42	0.21	0.37	0.30	0.11
-0.08	-0.08	0.05	0.33	-0.11	0.34	-0.13	-0.17	-0.09	0.30	0.39	0.21	0.30	0.21	0.44	0.20	0.44	0.29	0.16
-0.05	-0.12	0.09	0.36	-0.14	0.40	-0.13	-0.25	-0.11	0.34	0.45	0.31	0.44	0.35	0.50	0.18	0.45	0.35	0.11
-0.06	-0.16	-0.06	-0.11	0.26	-0.03	0.31	0.17	0.27	0.07	-0.01	-0.05	-0.18	-0.07	0.06	0.20	0.12	-0.08	-0.12
-0.08	0.08	0.09	0.25	-0.16	0.32	-0.14	-0.20	-0.14	0.24	0.40	0.37	0.52	0.37	0.43	0.17	0.36	0.31	0.18
-0.16	0.24	0.00	0.03	0.02	0.11	0.06	0.01	0.05	0.10	0.21	0.17	0.17	0.10	0.25	0.22	0.19	0.17	0.15
-0.08	-0.09	0.09	0.32	-0.07	0.39	0.00	-0.13	-0.04	0.31	0.41	0.30	0.34	0.28	0.46	0.24	0.39	0.27	0.12
-0.07	-0.30	0.07	0.22	-0.12	0.30	-0.01	-0.18	-0.08	0.20	0.38	0.37	0.39	0.36	0.33	0.17	0.26	0.34	0.04
-0.08	-0.17	0.10	0.16	0.05	0.27	0.08	-0.05	-0.04	0.31	0.30	0.18	0.25	0.19	0.36	0.24	0.34	0.18	0.11
-0.01	-0.11	-0.08	0.00	0.13	-0.06	0.13	0.15	0.13	0.04	0.05	-0.08	-0.11	-0.06	-0.01	0.05	0.14	0.00	0.21

(次頁に続く)

四角で囲んだ相関係数はp>0.05で、それ以外はp<0.05(片側)。N=1,649

自分に 忠実 (率直)1	孤高	謙恭し ない(妥 協しな い)	個性が 強い	計 画 性	孤 立	自 己 統 制 1	家 族 資 源	家 族 外 資 源	目 標 設 定 2	ス ト レ ス 処 理	明 朗 快 活 1	依 存 性	フ ラ ン ク	ノ ー テ ィ 1	自 分 を 大 切 に す る 1	お し や れ	怒 り の 処 理 1	マ イ ペ ー ス
1.00																		
0.35	1.00																	
0.06	-0.02	1.00																
0.29	0.15	0.32	1.00															
0.23	0.18	0.25	0.10	1.00														
0.31	0.27	-0.01	0.25	0.00	1.00													
0.05	0.10	0.17	-0.01	0.46	-0.11	1.00												
-0.05	0.02	0.06	-0.03	0.15	-0.21	0.21	1.00											
-0.10	-0.09	0.14	-0.02	0.21	-0.40	0.31	0.48	1.00										
0.05	0.00	0.28	0.18	0.47	-0.08	0.37	0.15	0.27	1.00									
0.18	0.09	0.19	0.06	0.42	-0.17	0.39	0.18	0.33	0.39	1.00								
0.00	-0.01	0.28	0.07	0.40	-0.28	0.56	0.35	0.53	0.37	0.44	1.00							
0.23	0.16	-0.07	0.00	0.06	0.17	0.06	-0.02	0.01	0.06	0.07	-0.09	1.00						
0.04	-0.05	0.32	0.21	0.34	-0.09	0.43	0.15	0.28	0.40	0.31	0.54	-0.20	1.00					
0.24	0.00	0.21	0.20	0.08	0.14	0.04	-0.08	0.01	0.17	0.22	0.09	0.09	0.22	1.00				
0.14	0.09	0.21	0.18	0.38	-0.07	0.36	0.15	0.24	0.42	0.47	0.40	0.07	0.33	0.24	1.00			
0.01	-0.01	0.10	0.08	0.27	-0.19	0.32	0.12	0.32	0.26	0.29	0.40	-0.03	0.34	0.05	0.36	1.00		
0.20	0.12	0.18	0.12	0.34	-0.08	0.37	0.15	0.32	0.35	0.44	0.36	0.20	0.25	0.17	0.33	0.27	1.00	
0.30	0.28	-0.09	0.08	0.07	0.13	0.08	0.00	0.03	-0.05	0.13	-0.01	0.23	-0.09	0.05	0.05	-0.04	0.11	1.00

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表 1 2. 否定的老後生活観の重回帰分析 (一括投入法)

	標準化係数	t 値	有意確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	0.121	5.267	0.000	0.110	0.130	0.915	1.093
性別	-0.030	-1.100	0.271	-0.054	-0.027	0.648	1.542
年間世帯所得	-0.037	-1.577	0.115	-0.102	-0.039	0.882	1.134
合理的思考	0.050	1.652	0.099	0.027	0.041	0.519	1.928
アスピレーション	-0.021	-0.600	0.549	-0.039	-0.015	0.393	2.547
ナルシズム	-0.047	-1.635	0.102	-0.153	-0.041	0.575	1.738
スマート3	-0.034	-1.026	0.305	-0.184	-0.026	0.434	2.305
手先の器用さ	0.012	0.420	0.674	-0.130	0.010	0.620	1.613
積極的親密性	0.058	1.740	0.082	-0.049	0.043	0.440	2.274
親和性	0.016	0.627	0.531	0.043	0.016	0.702	1.424
折り合い	0.010	0.340	0.734	-0.032	0.008	0.581	1.721
体力	-0.166	-6.412	0.000	-0.243	-0.158	0.721	1.386
信念	0.007	0.251	0.802	0.045	0.006	0.672	1.488
自分に忠実 (率直) 1	0.141	5.097	0.000	0.243	0.126	0.635	1.576
孤高	0.043	1.676	0.094	0.169	0.042	0.740	1.351
譲歩しない (妥協しない)	0.011	0.434	0.664	-0.049	0.011	0.691	1.446
個性が強い	0.037	1.412	0.158	0.093	0.035	0.688	1.453
計画性	0.028	0.925	0.355	-0.017	0.023	0.513	1.949
孤立	0.087	3.181	0.001	0.234	0.079	0.642	1.557
自己統制 1	-0.062	-2.030	0.042	-0.111	-0.050	0.527	1.897
家族資源	-0.061	-2.304	0.021	-0.132	-0.057	0.698	1.432
家族外資源	-0.022	-0.713	0.476	-0.154	-0.018	0.514	1.947
目標設定 2	-0.067	-2.295	0.022	-0.135	-0.057	0.569	1.759
ストレス処理	-0.091	-3.087	0.002	-0.108	-0.077	0.558	1.793
明朗快活 1	0.052	1.504	0.133	-0.140	0.037	0.401	2.492
依存性	0.164	6.215	0.000	0.257	0.153	0.699	1.431
フランク	-0.028	-0.893	0.372	-0.157	-0.022	0.507	1.972
ノーティイ 1	0.019	0.709	0.479	0.024	0.018	0.702	1.424
自分を大切にする 1	-0.023	-0.794	0.428	-0.073	-0.020	0.599	1.669
おしゃれ	0.002	0.052	0.958	-0.117	0.001	0.583	1.714
怒りの処理 1	0.079	2.858	0.004	0.046	0.071	0.638	1.568
マイペース	0.010	0.406	0.685	0.130	0.010	0.763	1.310

R=0.47, R2乗=0.22, 調整済R2乗=0.20 四角で囲んだ係数は P<0.05

表 1 1. 肯定的老後生活観の重回帰分析 (一括投入法)

	標準化係数	t 値	有意確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	0.013	0.587	0.557	-0.013	0.015	0.915	1.093
性別	-0.011	-0.407	0.684	-0.038	-0.010	0.648	1.542
年間世帯所得	0.098	4.409	0.000	0.193	0.109	0.882	1.134
合理的思考	-0.032	-1.094	0.274	0.153	-0.027	0.519	1.928
アスピレーション	0.016	0.487	0.626	0.241	0.012	0.393	2.547
ナルシズム	0.020	0.733	0.464	0.210	0.018	0.575	1.738
スマート3	-0.002	-0.049	0.961	0.250	-0.001	0.434	2.305
手先の器用さ	-0.007	-0.267	0.789	0.198	-0.007	0.620	1.613
積極的親密性	0.030	0.969	0.333	0.284	0.024	0.440	2.274
親和性	-0.010	-0.386	0.699	0.089	-0.010	0.702	1.424
折り合い	0.018	0.653	0.514	0.242	0.016	0.581	1.721
体力	0.139	5.669	0.000	0.319	0.140	0.721	1.386
信念	0.042	1.649	0.099	0.078	0.041	0.672	1.488
自分に忠実 (率直) 1	-0.047	-1.814	0.070	-0.060	-0.045	0.635	1.576
孤高	-0.031	-1.284	0.199	-0.060	-0.032	0.740	1.351
譲歩しない (妥協しない)	-0.004	-0.157	0.875	0.138	-0.004	0.691	1.446
個性が強い	0.000	-0.012	0.991	0.021	0.000	0.688	1.453
計画性	0.028	0.963	0.336	0.225	0.024	0.513	1.949
孤立	-0.127	-4.882	0.000	-0.263	-0.121	0.642	1.557
自己統制 2	0.007	0.237	0.813	0.252	0.006	0.527	1.897
家族資源	0.169	6.799	0.000	0.320	0.167	0.698	1.432
家族外資源	0.005	0.173	0.863	0.308	0.004	0.514	1.947
目標設定 2	0.094	3.423	0.001	0.298	0.085	0.569	1.759
ストレス処理	0.124	4.448	0.000	0.331	0.110	0.558	1.793
明朗快活 1	0.046	1.412	0.158	0.357	0.035	0.401	2.492
依存性	-0.067	-2.680	0.007	-0.114	-0.067	0.699	1.431
フランク	-0.002	-0.069	0.945	0.251	-0.002	0.507	1.972
ノーティイ 1	-0.032	-1.284	0.199	0.028	-0.032	0.702	1.424
自分を大切にする 1	0.134	4.978	0.000	0.319	0.123	0.599	1.669
おしゃれ	-0.025	-0.923	0.356	0.215	-0.023	0.583	1.714
怒りの処理 1	-0.052	-2.013	0.044	0.159	-0.050	0.638	1.568
マイペース	0.033	1.406	0.160	-0.004	0.035	0.763	1.310

R=0.55, R2乗=0.30, 調整済R2乗=0.29 四角で囲んだ係数は P<0.05

表13. ポジティブ・アフェクトの重回帰分析 (一括投入法)

	標準化 係数	t 値	有意 確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	-0.009	-0.417	0.677	-0.081	-0.010	0.915	1.093
性別	-0.035	-1.401	0.161	-0.051	-0.035	0.648	1.542
年間世帯所得	0.063	2.946	0.003	0.153	0.073	0.882	1.134
合理的思考	0.004	0.160	0.873	0.272	0.004	0.519	1.928
アスピレーション	0.185	5.817	0.000	0.405	0.143	0.393	2.547
ナルシズム	0.022	0.821	0.412	0.257	0.020	0.575	1.738
スマート3	-0.035	-1.160	0.246	0.308	-0.029	0.434	2.305
手先の器用さ	0.065	2.580	0.010	0.305	0.064	0.620	1.613
積極的親密性	0.059	1.953	0.051	0.401	0.049	0.440	2.274
親和性	-0.066	-2.755	0.006	0.136	-0.068	0.702	1.424
折り合い	-0.036	-1.373	0.170	0.276	-0.034	0.581	1.721
体力	0.069	2.957	0.003	0.319	0.073	0.721	1.386
信念	-0.033	-1.370	0.171	0.060	-0.034	0.672	1.488
自分に忠実(率直) 1	-0.025	-1.002	0.317	-0.008	-0.025	0.635	1.576
孤高	-0.067	-2.912	0.004	-0.078	-0.072	0.740	1.351
譲歩しない(妥協しない)	0.022	0.939	0.348	0.247	0.023	0.691	1.446
個性が強い	0.075	3.123	0.002	0.150	0.077	0.688	1.453
計画性	-0.034	-1.208	0.227	0.265	-0.030	0.513	1.949
孤立	-0.083	-3.350	0.001	-0.208	-0.083	0.642	1.557
自己統制 1	-0.020	-0.729	0.466	0.278	-0.018	0.527	1.897
家族資源	0.038	1.597	0.110	0.219	0.040	0.698	1.432
家族外資源	0.089	3.217	0.001	0.345	0.080	0.514	1.947
目標設定 2	0.142	5.358	0.000	0.408	0.132	0.569	1.759
ストレス処理	0.061	2.271	0.023	0.342	0.056	0.558	1.793
明朗快活 1	0.036	1.149	0.251	0.399	0.029	0.401	2.492
依存性	0.009	0.380	0.704	-0.027	0.009	0.699	1.431
フランク	0.016	0.571	0.568	0.323	0.014	0.507	1.972
ノーティ 1	-0.003	-0.119	0.905	0.112	-0.003	0.702	1.424
自分を大切にする 1	0.134	5.209	0.000	0.390	0.129	0.599	1.669
おしゃれ	0.019	0.713	0.476	0.299	0.018	0.583	1.714
怒りの処理 1	0.034	1.357	0.175	0.274	0.034	0.638	1.568
マイペース	-0.033	-1.426	0.154	-0.064	-0.035	0.763	1.310

R=0.60, R2乗=0.36, 調整済R2乗=0.35 四角で囲んだ係数は P<0.05

表14. ネガティブ・アフェクトの重回帰分析 (一括投入法)

	標準化 係数	t 値	有意 確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	0.035	1.540	0.124	0.030	0.038	0.915	1.093
性別	-0.122	-4.574	0.000	-0.150	-0.113	0.648	1.542
年間世帯所得	0.024	1.041	0.298	-0.027	0.026	0.882	1.134
合理的思考	0.000	0.009	0.993	-0.011	0.000	0.519	1.928
アスピレーション	0.076	2.223	0.026	-0.019	0.055	0.393	2.547
ナルシズム	0.041	1.450	0.147	-0.058	0.036	0.575	1.738
スマート3	-0.034	-1.042	0.298	-0.155	-0.026	0.434	2.305
手先の器用さ	0.007	0.266	0.790	-0.095	0.007	0.620	1.613
積極的親密性	0.024	0.744	0.457	-0.023	0.019	0.440	2.274
親和性	0.051	2.000	0.046	0.112	0.050	0.702	1.424
折り合い	-0.062	-2.206	0.028	-0.064	-0.055	0.581	1.721
体力	-0.191	-7.563	0.000	-0.225	-0.185	0.721	1.386
信念	-0.021	-0.806	0.420	0.014	-0.020	0.672	1.488
自分に忠実(率直) 1	0.095	3.512	0.000	0.220	0.087	0.635	1.576
孤高	0.037	1.502	0.133	0.147	0.037	0.740	1.351
譲歩しない(妥協しない)	-0.011	-0.423	0.672	-0.050	-0.011	0.691	1.446
個性が強い	0.100	3.862	0.000	0.149	0.096	0.688	1.453
計画性	-0.025	-0.841	0.400	-0.075	-0.021	0.513	1.949
孤立	0.070	2.608	0.009	0.213	0.065	0.642	1.557
自己統制 1	-0.075	-2.530	0.012	-0.125	-0.063	0.527	1.897
家族資源	-0.024	-0.920	0.358	-0.103	-0.023	0.698	1.432
家族外資源	-0.042	-1.395	0.163	-0.122	-0.035	0.514	1.947
目標設定 2	-0.081	-2.834	0.005	-0.122	-0.070	0.569	1.759
ストレス処理	-0.151	-5.263	0.000	-0.132	-0.130	0.558	1.793
明朗快活 1	0.040	1.171	0.242	-0.128	0.029	0.401	2.492
依存性	0.219	8.540	0.000	0.312	0.208	0.699	1.431
フランク	-0.025	-0.838	0.402	-0.142	-0.021	0.507	1.972
ノーティ 1	0.053	2.079	0.038	0.056	0.052	0.702	1.424
自分を大切にする 1	0.047	1.697	0.090	0.003	0.042	0.599	1.669
おしゃれ	0.073	2.587	0.010	-0.006	0.064	0.583	1.714
怒りの処理 1	0.094	3.486	0.001	0.079	0.086	0.638	1.568
マイペース	0.029	1.197	0.231	0.131	0.030	0.763	1.310

R=0.51, R2乗=0.26, 調整済R2乗=0.24 四角で囲んだ係数は P<0.05

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表 16. 心理社会的老化度の重回帰分析 (一括投入法)

	標準化係数	t 値	有意確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	0.175	7.706	0.000	0.159	0.188	0.915	1.093
性別	-0.049	-1.837	0.066	-0.069	-0.046	0.648	1.542
年間世帯所得	0.007	0.239	0.765	-0.043	0.007	0.882	1.134
合理的思考	0.027	0.883	0.377	0.044	0.022	0.519	1.928
アスピレーション	0.059	1.709	0.088	0.028	0.042	0.393	2.547
ナルシシズム	0.010	0.361	0.718	-0.109	0.009	0.575	1.738
スマート3	-0.158	-4.801	0.000	-0.215	-0.119	0.434	2.305
手先の器用さ	0.022	0.798	0.425	-0.118	0.020	0.620	1.613
積極的親密性	0.048	1.457	0.145	0.001	0.036	0.440	2.274
親和性	0.051	1.977	0.048	0.098	0.049	0.702	1.424
折り合い	0.019	0.653	0.514	-0.001	0.016	0.581	1.721
体力	-0.143	-5.623	0.000	-0.200	-0.139	0.721	1.386
信念	-0.019	-0.733	0.464	0.053	-0.018	0.672	1.488
自分に忠実 (率直) 1	0.137	5.048	0.000	0.256	0.125	0.635	1.576
孤高	0.051	2.026	0.043	0.176	0.050	0.740	1.351
謙恭しない(妥協しない)	0.038	1.463	0.144	-0.008	0.036	0.691	1.446
個性が強い	0.080	3.080	0.002	0.143	0.076	0.688	1.453
計画性	0.034	1.119	0.263	-0.006	0.028	0.513	1.949
孤立	0.097	3.584	0.000	0.233	0.089	0.642	1.557
自己統制 1	-0.079	-2.644	0.008	-0.113	-0.066	0.527	1.897
家族資源	0.027	1.045	0.296	-0.034	0.026	0.698	1.432
家族外資源	-0.011	-0.365	0.715	-0.101	-0.009	0.514	1.947
目標設定 2	-0.049	-1.695	0.090	-0.103	-0.042	0.569	1.759
ストレス処理	-0.084	-2.900	0.004	-0.086	-0.072	0.558	1.793
明朗快活 1	0.034	0.994	0.321	-0.112	0.025	0.401	2.492
依存性	0.158	6.109	0.000	0.265	0.150	0.699	1.431
フランク	-0.026	-0.839	0.401	-0.137	-0.021	0.507	1.972
ノーティイ 1	0.047	1.814	0.070	0.050	0.045	0.702	1.424
自分を大切にする 1	-0.035	-1.247	0.213	-0.043	-0.031	0.599	1.669
おしゃれ	0.025	0.885	0.377	-0.085	0.022	0.583	1.714
怒りの処理 1	0.029	1.084	0.278	0.038	0.027	0.638	1.568
マイペース	0.012	0.473	0.636	0.135	0.012	0.763	1.310

R=0.49, R2乗=0.24, 調整済R2乗=0.23 四角で囲んだ係数は P<0.05

表 15. 日常活動老化度の重回帰分析 (一括投入法)

	標準化係数	t 値	有意確率	相関係数		共線性診断	
				0次	偏相関	許容度	VIF
年齢	0.196	9.110	0.000	0.224	0.221	0.915	1.093
性別	-0.106	-4.145	0.000	-0.052	-0.103	0.648	1.542
年間世帯所得	0.004	0.179	0.858	-0.038	0.004	0.882	1.134
合理的思考	0.019	0.655	0.513	-0.091	0.016	0.519	1.928
アスピレーション	-0.010	-0.305	0.760	-0.124	-0.008	0.393	2.547
ナルシシズム	0.063	2.342	0.019	-0.108	0.058	0.575	1.738
スマート3	-0.021	-0.684	0.494	-0.217	-0.017	0.434	2.305
手先の器用さ	-0.040	-1.551	0.121	-0.201	-0.039	0.620	1.613
積極的親密性	0.056	1.793	0.073	-0.155	0.045	0.440	2.274
親和性	-0.033	-1.363	0.173	-0.041	-0.034	0.702	1.424
折り合い	-0.028	-1.057	0.290	-0.138	-0.026	0.581	1.721
体力	-0.240	-9.918	0.000	-0.328	-0.240	0.721	1.386
信念	0.033	1.299	0.194	0.086	0.032	0.672	1.488
自分に忠実 (率直) 1	0.133	5.154	0.000	0.240	0.127	0.635	1.576
孤高	0.076	3.187	0.001	0.208	0.079	0.740	1.351
謙恭しない(妥協しない)	0.005	0.186	0.853	-0.108	0.005	0.691	1.446
個性が強い	0.059	2.366	0.018	0.112	0.059	0.688	1.453
計画性	-0.072	-2.528	0.012	-0.163	-0.063	0.513	1.949
孤立	0.129	5.048	0.000	0.304	0.125	0.642	1.557
自己統制 1	-0.074	-2.600	0.009	-0.214	-0.065	0.527	1.897
家族資源	0.088	3.599	0.000	-0.060	0.089	0.698	1.432
家族外資源	-0.090	-3.151	0.002	-0.240	-0.078	0.514	1.947
目標設定 2	-0.032	-1.182	0.237	-0.213	-0.029	0.569	1.759
ストレス処理	-0.050	-1.808	0.071	-0.171	-0.045	0.558	1.793
明朗快活 1	-0.030	-0.912	0.362	-0.250	-0.023	0.401	2.492
依存性	0.081	3.303	0.001	0.174	0.082	0.699	1.431
フランク	0.004	0.148	0.882	-0.199	0.004	0.507	1.972
ノーティイ 1	0.062	2.545	0.011	0.013	0.063	0.702	1.424
自分を大切にする 1	-0.030	-1.116	0.265	-0.135	-0.028	0.599	1.669
おしゃれ	-0.009	-0.320	0.749	-0.178	-0.008	0.583	1.714
怒りの処理 1	0.043	1.673	0.095	-0.047	0.042	0.638	1.568
マイペース	0.055	2.336	0.020	0.154	0.058	0.763	1.310

R=0.56, R2乗=0.32, 調整済R2乗=0.31 四角で囲んだ係数は P<0.05

(2) ステップワイズ法による重回帰分析

表17～表22は、最終ステップの結果を示したものである。各表のVIF欄に示すように、変動インフレーション因子はいずれの独立変数においても2を越えたものはないので、このモデルにおける多重共線性は許容範囲内とみなしてよいであろう。

① 肯定的老後生活観とコンピテンス/ライフ・スキル

表17に示す重回帰モデルでは、肯定的老後生活観は、年間世帯所得と9つのコンピテンス/ライフ・スキルで全体の約30%が説明される。この表では、各変数は標準化係数の大きさの順に並べてある。

表17. 肯定的老後生活観の重回帰分析（最終第10ステップの係数）

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	6.224	0.922			6.751	0.000				
家族資源	0.500	0.065	0.175	0.023	7.679	0.000	0.320	0.186	0.832	1.202
体力	0.183	0.029	0.144	0.023	6.283	0.000	0.319	0.153	0.817	1.224
ストレス処理	0.205	0.041	0.131	0.026	4.962	0.000	0.331	0.122	0.620	1.612
自分を大切にする1	0.325	0.063	0.130	0.025	5.176	0.000	0.319	0.127	0.678	1.474
目標設定2	0.185	0.044	0.103	0.025	4.178	0.000	0.298	0.103	0.712	1.404
年間世帯所得	0.001	0.000	0.096	0.021	4.447	0.000	0.193	0.109	0.934	1.071
明朗快活1	0.092	0.038	0.065	0.027	2.413	0.016	0.357	0.060	0.599	1.669
怒りの処理1	-0.123	0.053	-0.057	0.025	-2.305	0.021	0.159	-0.057	0.706	1.416
依存性	-0.160	0.047	-0.074	0.022	-3.387	0.001	-0.114	-0.083	0.890	1.123
孤立	-0.258	0.042	-0.137	0.022	-6.162	0.000	-0.263	-0.151	0.875	1.142

R=0.543, R2乗=0.294 調整済R2乗=0.290

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
回帰	9981.0	10	998.1	68.4	0.000
残差	23914.0	1638	14.6		
全体	33895.0	1648			

0次の相関係数の欄に示されているように、肯定的老後生活観と各コンピテンスの関係をそれぞれ別個にみると、正の相関を持つ変数の中では、「明朗快活1」の相関係数が0.357と最も大きく、「ストレス処理」、「家族資源」、「体力」、「自分を大切にする1」、「目標設定2」、「年間世帯所得」、「怒りの処理1」と続いている。しかし、偏相関係数欄に示されているように、変数相互の関係を排除すると、いずれの変数も係数の値が大幅に低下し、肯定的老後生活観に対するそれ独自の影響度が大きく低下することがわかる。そして、係数の大きさを比べてみると、順位が大きく変化している。

ベータ欄の標準化偏回帰係数に見るように、肯定的老後生活観に促進的に作用している変数を影響度の順にあげると「家族資源」や「体力」、「ストレス処理」、「自分を大切にする1」、「目標設定2」、「年間世帯所得」、「明朗快活1」である。「年間世帯所得」で表される経済的豊かさよりも、種々のコンピテンス/ライフ・スキルが肯定的老後生活観に、より強い影響を与えていることがわかる。

肯定的老後生活観に阻害的に作用している変数を影響度の順に上げると「孤立」、「依存性」、「怒りの処理1」である。「孤立」と「依存性」は0次の相関係数でも負値であり、これらは社会関係に関わる負のコンピテンス/ライフ・スキルであるから、この結果は常識的にも理解しやすいが、「怒りの処理1」は、0次の相関係数は正値であったものが、このモデルでは係数が負値となって肯定的老

高齢者の日常的コンピテンズ/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

後生活観に阻害的に作用している。怒りを上手に処理できることは、精神的安定に通じるというよりは不満をくすぶらせることになるからだろうか。

②否定的老後生活観とコンピテンズ/ライフ・スキル

否定的老後生活観に促進的に作用している変数は、「依存性」、「自分に忠実（率直）1」、「年齢」、「孤立」、「怒りの処理1」、「積極的親密性」、「孤高」であり、中でも、「依存性」と「自分に忠実（率直）1」の影響が大きい（表18）。「年齢」が上がるにつれて否定的老後生活観が強くなるという傾向が明らかであるが、それ以上に「依存性」や「自分に忠実（率直）1」が否定的老後生活観に強い影響を与えている。このことは、「年齢」という人口学的要因にもましてコンピテンズ/ライフ・スキルが老後の生活観を左右していることを物語っているといえるであろう。

表18. 否定的老後生活観の重回帰分析（最終第11ステップの係数）

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	7.954	1.145			6.947	0.000				
依存性	0.262	0.035	0.176	0.023	7.518	0.000	0.257	0.183	0.887	1.128
自分に忠実（率直）1	0.240	0.034	0.172	0.024	7.002	0.000	0.243	0.171	0.808	1.238
年齢	0.064	0.012	0.119	0.023	5.266	0.000	0.110	0.129	0.955	1.048
孤立	0.138	0.032	0.106	0.025	4.300	0.000	0.234	0.106	0.800	1.249
怒りの処理1	0.126	0.039	0.085	0.026	3.237	0.001	0.046	0.080	0.708	1.413
積極的親密性	0.066	0.024	0.075	0.027	2.810	0.005	-0.049	0.069	0.677	1.476
家族資源	-0.130	0.046	-0.066	0.023	-2.848	0.004	-0.132	-0.070	0.907	1.103
目標設定2	-0.085	0.033	-0.068	0.026	-2.596	0.010	-0.135	-0.064	0.697	1.435
ストレス処理	-0.094	0.030	-0.086	0.027	-3.151	0.002	-0.108	-0.078	0.649	1.542
ナルシズム	-0.231	0.064	-0.087	0.024	-3.587	0.000	-0.153	-0.088	0.830	1.205
体力	-0.149	0.022	-0.170	0.025	-6.923	0.000	-0.243	-0.169	0.804	1.244

R=0.455, R2乗=0.207, 調整済R2乗=0.201

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
回帰	3354.0	11	304.9	38.8	0.000
残差	12877.4	1637	7.9		
全体	16231.4	1648			

否定的老後生活観に阻害的に作用しているコンピテンズは、「体力」、「ナルシズム」、「ストレス処理」、「目標設定」、「家族資源」であり、中でも、「体力」の影響が大きい。この「体力」は、肯定的老後生活観にも大きな促進的作用を及ぼしていたから、「体力」という身体的コンピテンズは、様々な心理社会的コンピテンズに比べて、肯定、否定の両面にわたって老後生活観を大きく左右するものであることがわかる。

上で見たように、「年間世帯所得」は肯定的老後生活観に促進的に作用していたから、この否定的老後生活観のモデルでは阻害的に作用する変数になることが予想されたが、結果は、有意な係数としてモデルに組み込まれることがなかった。老後の経済水準が高齢期における満足感、幸福感を左右することは当然のことと考えられるが、肯定的老後生活観のモデルにおいても影響度がそれほど大きくなかったことも考え合わせると、高齢期における幸福感に諸種のコンピテンズ/ライフ・スキルが及ぼしている影響の大きさが理解されよう。

ところで、否定的老後生活観に促進的に作用しているコンピテンズは、いずれも社会関係に関わる

コンピテンスである。本稿で「自分に忠実（率直）」と命名した潜在変数を構成する諸項目は、見方を変えれば、いずれも自己中心的で非社交的な態度や行動を表す諸項目ともいえる。「自分に忠実（率直）」であることは、社会関係の文脈からは「社交的ではない」ということである。「孤立」も同様に社会関係網の狭さや社交性の低さを表している。したがって、「自分に忠実（率直）」や「孤立」が否定的老後生活観に促進的に作用しているという結果は、高齢期における「社交性の低さ」は生活満足感や幸福感を阻害すると理解することができる。

しかし、「社交性の低さ」とは全く逆のタイプとみなしうる「積極的親密性」も否定的老後生活観に促進的に作用している。表4および表5で見たように、「積極的親密性」は肯定的老後生活観と有意な正の、しかも他のコンピテンスに比べて相対的に高い相関関係にあり、否定的老後生活観とは有意な負の相関関係にあった。0次の相関係数から見るかぎりには、「積極的親密性」のような高い社交性は老後生活観を肯定的なものにしていることを示しており、そうした理解は一般的にも受け入れやすいであろう。ところが、表18に見るように、偏相関係数や重回帰分析の結果は、そうした一般的理解を否定するものとなっている。

「怒りの処理1」は、対人関係に起因する怒りをうまく処理して人との関係を維持しようとする行為ともいえるから、「積極的親密性」と同様に「低い社交性」とは逆のタイプのコンピテンス/ライフ・スキルとみなすことができる。この「怒りの処理1」は、表4および表5で見たように、肯定的老後生活観と否定的老後生活観のいずれとも正の相関関係にあるが、肯定的老後生活観との相関係数(0.153)の方が否定的老後生活観との相関係数(0.047)よりも大きい。しかし、重回帰分析の結果では、「積極的親密性」と同様に、肯定的老後生活観を促進する変数としてではなく、否定的老後生活観を促進する変数として登場している。

「積極的親密性」や「怒りの処理」といったコンピテンス/ライフ・スキルは、一般的には良好な社会関係を維持する能力と理解されており、高齢期における生活満足感や幸福感を高めると考えられている。それゆえ、以上の結果は、正直なところ意外である。この結果から判断されることは、要するに、社交的あるいは人付き合いが上手であることが、高齢期における生活満足感や幸福感を高めるものとはなっていないばかりか、むしろ阻害しているということである。この結果に関しては様々な解釈が可能であろうが、社会関係に関わるコンピテンスとサクセスフル・エイジングに関してあらためて検討しなければならぬ課題を提起していると考えられる。

③ ポジティブ・アフェクトとコンピテンス

ポジティブ・アフェクトに促進的に作用している変数を、その影響度の大きさ(β)の順に列挙すると、「アスピレーション」、「目標設定2」、「自分を大切にする1」、「家族外資源」、「年間世帯所得」、「個性が強い」、「体力」、「手先の器用さ」、「積極的親密性」、「ストレス処理」である(表19)。

ポジティブ・アフェクトは、肯定的老後生活観と同様に高齢期の生活満足感、幸福感を測定する尺度として用意したものであるが、ポジティブ・アフェクトの重回帰モデルにおいて促進的に作用する変数には、肯定的老後生活観の重回帰モデルに共通するものとそうではないものがある。共通する変数は、「目標設定2」、「自分を大切にする1」、「年間世帯所得」、「体力」、「ストレス処理」の5変数である。これら5つの変数も、肯定的老後生活観モデルとポジティブ・アフェクト・モデルとでは、その影響度に違いが見られる。肯定的老後生活観モデルにおいては、影響度の大きさは、「体力」、「ストレス処理」、「自分を大切にする1」、「目標設定2」、「年間世帯所得」の順であったが、ポジティブ・アフェクト・モデルにおいては、「目標設定2」と「自分を大切にする1」の影響度が「体力」と「ストレス処理」を大きく上回っている。そして、ここでも、「年間世帯所得」の影響力は、諸種のコンピテンス/ライフ・スキルよりも小さいことが示されている。

肯定的老後生活観モデルには促進的作用をする変数として含まれなかった変数で、ポジティブ・ア

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表19. ポジティブ・アフェクトの重回帰分析（最終第17ステップの係数）

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	0.422	0.910			0.464	0.643				
アスピレーション	0.159	0.025	0.174	0.027	6.469	0.000	0.405	0.158	0.547	1.829
目標設定2	0.243	0.044	0.138	0.025	5.584	0.000	0.408	0.137	0.648	1.543
自分を大切にする1	0.331	0.061	0.136	0.025	5.439	0.000	0.390	0.133	0.638	1.567
家族外資源	0.268	0.051	0.126	0.024	5.232	0.000	0.345	0.128	0.684	1.462
年間世帯所得	0.001	0.000	0.074	0.020	3.616	0.000	0.153	0.089	0.955	1.047
個性が強い	0.219	0.066	0.073	0.022	3.338	0.001	0.150	0.082	0.831	1.203
体力	0.085	0.028	0.068	0.023	3.004	0.003	0.319	0.074	0.774	1.292
手先の器用さ	0.140	0.048	0.065	0.022	2.902	0.004	0.305	0.072	0.786	1.272
積極的親密性	0.076	0.036	0.061	0.029	2.104	0.036	0.401	0.052	0.475	2.107
ストレス処理	0.081	0.038	0.053	0.025	2.103	0.036	0.342	0.052	0.632	1.581
性別	-0.416	0.188	-0.047	0.021	-2.216	0.027	-0.051	-0.055	0.889	1.125
マイペース	-0.103	0.045	-0.049	0.021	-2.274	0.023	-0.064	-0.056	0.869	1.151
親和性	-0.223	0.082	-0.062	0.023	-2.720	0.007	0.136	-0.067	0.753	1.327
孤高	-0.246	0.071	-0.077	0.022	-3.469	0.001	-0.078	-0.086	0.805	1.242
孤立	-0.174	0.044	-0.094	0.024	-3.972	0.000	-0.208	-0.098	0.708	1.413

R=0.593, R2乗=0.352, 調整済R2乗=0.346

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
回帰	11439.2	15	762.6	59.2	0.000
残差	21045.9	1633	12.9		
全体	32485.0	1648			

フェクト・モデルに含まれるようになった変数は、「アスピレーション」、「家族外資源」、「個性が強い」、「手先の器用さ」、「積極的親密性」の5変数である。中でも「アスピレーション」の影響力が一段と大きい。「家族外資源」は、支援資源として取り上げた2つの種類の資源のうちの一つである。肯定的老後生活観モデルではもう一方の「家族資源」が促進的に作用する変数として含まれていたが、このポジティブ・アフェクト・モデルにはそれが含まれることなく、それとは異なるタイプの「家族外資源」が含まれたことは興味深い。

否定的老後生活観モデルでは阻害要因になっていた「積極的親密性」は、このポジティブ・アフェクトモデルでは促進要因になっている。その影響度は大きいものではないとはいえ、「積極的親密性」というコンピテンス/ライフ・スキルが高齢期の幸福感に及ぼす作用は複雑である。

ポジティブ・アフェクトに阻害的に作用する変数は「孤立」と「孤高」、「親和性」、「マイペース」、「性別」である。既に見たように、「孤立」は肯定的老後生活観に阻害的に、否定的老後生活観に促進的に作用していることから、「孤立」は高齢期の生活満足感や幸福感を明らかに阻害する負のコンピテンスであることがわかる。「親和性」がポジティブ・アフェクトに阻害的に作用しているが、ここでいう「親和性」は、むしろ「寂しさを紛らわすこと」と言い換えた方が、この結果を理解しやすいかもしれない。「孤高」と「マイペース」がポジティブ・アフェクトの阻害要因になっていることは、自己志向仮説を反証するものといえる。「性別」が阻害的に作用しているということは、「性別」が男を1、女を0とするダミー変数であることから、この重回帰モデルで推計されるポジティブ・アフェクト得点は、男性の方が低くなるということである。

④ネガティブ・アフェクトとコンピテンス/コンピテンス/ライフ・スキル

ネガティブ・アフェクトに促進的に作用している変数を標準化係数の大きさの順に列挙すると、「依存性」、「自分に忠実(率直)1」、「個性が強い」、「怒りの処理1」、「孤立」、「おしゃれ」、「アスピレーション」、「自分を大切にする1」、「親和性」、「ノーティ1」である(表20)。このうち、「依存性」と「自分に忠実(率直)1」、「怒りの処理1」、「孤立」は、否定的老後生活観モデルにおいても促進要因になっていたものであることから、これらは高齢期の幸福感を阻害する主要な要因であるとみなしてよいであろう。とくに、「依存性」という負のコンピテンスの影響が大きい。「自分に忠実(率直)1」と「個性が強い」がネガティブ・アフェクトに相対的に大きな影響度を持っていることは、自己志向仮説を反証するものといえる。また、「怒りの処理1」は、否定的老後生活観モデルの場合と同様にネガティブ・アフェクトに促進的に作用する変数となっており、先にも述べたように、怒りを上手に処理することは高齢期の幸福感を高めていないことがわかる。

「親和性」は、ポジティブ・アフェクトに阻害的に作用していて「寂しさを紛らわすこと」と読み替えた方がよいことを述べたが、このネガティブ・アフェクトのモデルにおいて促進的に作用していることから、「依存性」や「孤立」と同様に負のコンピテンス/ライフ・スキルと見なした方がよさそうである。

「おしゃれ」と「アスピレーション」、「ナルシズム」は、0次の相関係数欄にみるように、単純相関ではそれぞれネガティブ・アフェクトと逆相関の関係にある。しかし、他の変数の影響を除去した偏相関係数および標準化(偏回帰)係数は正值であるように、この重回帰モデルでは、それらは、いずれもネガティブ・アフェクトに促進的に作用している。とくに、「アスピレーション」は、ポジ

表20. ネガティブ・アフェクトの重回帰分析(最終第16ステップの係数)

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	8.593	1.161			7.398	0.000				
依存性	0.584	0.060	0.232	0.024	9.738	0.000	0.312	0.234	0.813	1.230
自分に忠実(率直)1	0.250	0.059	0.105	0.025	4.226	0.000	0.220	0.104	0.739	1.353
個性が強い	0.331	0.087	0.092	0.024	3.810	0.000	0.149	0.094	0.786	1.273
怒りの処理1	0.226	0.066	0.090	0.026	3.423	0.001	0.079	0.084	0.667	1.500
孤立	0.187	0.054	0.084	0.025	3.428	0.001	0.213	0.085	0.759	1.317
おしゃれ	0.180	0.065	0.072	0.026	2.772	0.006	-0.006	0.068	0.682	1.466
アスピレーション	0.078	0.031	0.071	0.028	2.516	0.012	-0.019	0.062	0.571	1.751
自分を大切にする1	0.164	0.079	0.056	0.027	2.064	0.039	0.003	0.051	0.624	1.604
親和性	0.221	0.100	0.052	0.024	2.196	0.028	0.112	0.054	0.829	1.206
ノーティ1	0.112	0.057	0.048	0.025	1.962	0.050	0.056	0.049	0.757	1.321
折り合い	-0.181	0.084	-0.059	0.027	-2.165	0.031	-0.064	-0.054	0.615	1.626
自己統制1	-0.158	0.057	-0.074	0.027	-2.783	0.005	-0.125	-0.069	0.648	1.544
目標設定2	-0.209	0.056	-0.099	0.027	-3.708	0.000	-0.122	-0.091	0.643	1.555
性別	-1.341	0.266	-0.126	0.025	-5.048	0.000	-0.150	-0.124	0.734	1.362
ストレス処理	-0.280	0.051	-0.153	0.028	-5.451	0.000	-0.132	-0.134	0.587	1.704
体力	-0.287	0.036	-0.193	0.024	-7.876	0.000	-0.225	-0.191	0.768	1.303

R=0.499, R2乗=0.249, 調整済R2乗=0.241

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
回帰	11550.5	16	721.9	33.8	0.000
残差	34874.5	1632	21.4		
全体	46425.0	1648			

高齢者の日常的コンピテンス／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

タイプ・アフェクトの重回帰モデルでは大きな促進的作用をする変数であったから、「アスピレーション」レベルが高いことが高齢期の幸福感を必ずしも促進するわけではないという結果は興味深い。

「ノーティ1」は、茶目っ気があって気が置けない人柄のまま気ままに暮らすためのコンピテンス／ライフ・スキルと見ることができる。そして、そうしたコンピテンス／ライフ・スキルを持っている人はポジティブ・アフェクトの水準が高いと考えることができるが、結果はネガティブ・アフェクトに促進的に作用している。

ネガティブ・アフェクトに阻害的に作用している変数を、その影響度の大きさの順に列挙すると、「体力」、「性別」、「ストレス処理」、「目標設定2」、「自己統制1」、「折り合い」である。このうち、「体力」、「ストレス処理」、「目標設定2」は、肯定的老後生活観モデルにおいて促進的に作用する変数であり、否定的老後生活観モデルにおいて阻害的に作用する変数である。そして、「体力」、「目標設定2」はポジティブ・アフェクトの重回帰モデルにおいて促進的に作用する変数である。したがって、これら4つのコンピテンスは、明らかに高齢期の幸福感を高めていることがわかる。

「性別」は、これまで見てきた肯定的老後生活観モデル、否定的老後生活観モデル、ポジティブ・アフェクト・モデルのいずれにも含まれていなかったものである。そして、このネガティブ・アフェクト・モデルにおいては、「体力」に次いで強い影響力を持っている。「性別」は男を1、女を0とするダミー変数であるから、「性別」がネガティブ・アフェクトに阻害的に作用しているということは、男性であることがネガティブ・アフェクトを阻害しているということである。言い換えれば、この重回帰モデルに含まれるコンピテンスの水準が同一であった場合には、女性の方がネガティブ・アフェクトの水準が高い、すなわち幸福感が低いということである。

⑤日常活動老化度とコンピテンス

表21に見るように、日常活動老化度の重回帰モデルには14個の独立変数が含まれている。日常活動老化度に促進的に作用している9つの変数を影響力の大きい順に列挙すると、「年齢」、「自分に忠実（率直）1」、「孤立」、「家族資源」、「依存性」、「孤高」、「個性が強い」、「マイペース」、「ノーティ」である。日常活動老化度を促進する要因の中では、「年齢」という人口学的変数が最も強く作用している。年をとるにつれて、誰でもが大なり小なり日常的な活動の中での老化現象を経験しているということであるが、0次の相関係数に見るように、仮に独立変数を「年齢」1変数だけの回帰モデルを構成した場合には、説明力はわずか0.48%にしかすぎない。日常活動老化度は、「年齢」だけではとうてい説明できないということである。

「自分に忠実（率直）1」と「孤立」、「依存性」は、否定的老後生活観やネガティブ・アフェクトにも促進的に作用していたが、この日常活動老化度にも促進的に作用している。これら3つのコンピテンス／ライフ・スキルは、高齢期の幸福感を阻害する主要な要因になっていることがわかる。

「家族資源」は、0次の相関係数が正值であるから、見かけ上は日常活動老化度を阻害する要因のように見える。しかし、他の独立変数の影響を除去すると、偏回帰係数および偏相関係数が負値であるように、日常活動老化度を促進している。「家族資源」は、肯定的老後生活観の主要な促進要因であり、否定的老後生活観の阻害要因であったが、日常活動老化度の促進要因になっている。このことは、頼りになる「家族資源」を有するがゆえに日常的活動における老化を強く意識するようになる、ということを示しているのであろうか。「個性が強い」や「ノーティ1」が日常活動の老化度を促進しているということも興味深いところである。个性的であることやお茶目であることは、それだけ老化を強く意識するということかもしれない。

日常活動老化度に阻害的に作用する変数を影響力の大きい順に列挙すると、「体力」、「計画性」、「家族外資源」、「性別」、「自己統制1」である。中でも「体力」の影響力が大きい。このことは常識的にもうなずける。ダミー変数の「性別」が阻害要因であることは、男性であることが日常活動老化

表21. 日常活動老化度の重回帰分析（最終第14ステップの係数）

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	1.876	1.192			1.574	0.116				
年齢	0.114	0.012	0.200	0.021	9.494	0.000	0.224	0.229	0.952	1.051
自分に忠実（率直）1	0.213	0.037	0.145	0.025	5.827	0.000	0.240	0.143	0.687	1.456
孤立	0.199	0.034	0.145	0.025	5.812	0.000	0.304	0.142	0.684	1.463
家族資源	0.179	0.050	0.086	0.024	3.596	0.000	-0.060	0.089	0.745	1.343
依存性	0.124	0.035	0.079	0.022	3.536	0.000	0.174	0.087	0.850	1.176
孤高	0.176	0.055	0.074	0.023	3.186	0.001	0.208	0.079	0.781	1.281
個性が強い	0.133	0.050	0.060	0.022	2.657	0.008	0.112	0.066	0.844	1.185
マイペース	0.084	0.035	0.054	0.022	2.383	0.017	0.154	0.059	0.838	1.193
ノーティ1	0.073	0.033	0.051	0.023	2.222	0.026	0.013	0.055	0.807	1.239
自己統制1	-0.120	0.032	-0.091	0.024	-3.717	0.000	-0.214	-0.092	0.709	1.410
性別	-0.607	0.147	-0.092	0.022	-4.115	0.000	-0.052	-0.101	0.850	1.177
家族外資源	-0.153	0.042	-0.097	0.027	-3.641	0.000	-0.240	-0.090	0.598	1.673
計画性	-0.103	0.026	-0.097	0.025	-3.959	0.000	-0.163	-0.097	0.705	1.418
体力	-0.229	0.021	-0.248	0.023	-10.950	0.000	-0.328	-0.261	0.826	1.210

R=0.555, R2乗=0.308, 調整済R2乗=0.302

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
回帰	5530.2	14	395.0	51.9	0.000
残差	12436.8	1634	7.6		
全体	17967.0	1648			

度を阻害しているということであり、この重回帰モデルに含まれるコンピテンスの水準が同一であった場合には、女性の方が日常活動老化度の水準が高いということである。「家族資源」が促進要因であるのに対して、「家族外資源」が阻害要因になっていることは興味深い。「自己統制1」や「計画性」は、日常的な活動能力の低下を抑制していることがわかる。

⑥心理社会的老化度とコンピテンス/ライフ・スキル

日常活動老化度と同様に、「年齢」が大きな促進要因になっている（表22）。「依存性」や「自分に忠実（率直）1」、「孤立」、「個性が強い」も日常活動老化度の促進要因と同じである。これらは、主観的老化度を左右する主要な要因といえることができる。しかし、心理社会的老化度の促進要因と日常活動老化度のそれとは異なる場所も少なくない。とくに、「アスピレーション」が促進要因になっていることは注目に値しよう。アスピレーションのレベルが高いからといって、若々しいとは限らないということであろうか。それとも、アスピレーションが高い人ほど心理社会的老化を強く意識するというところであろうか。「親和性」はネガティブ・アフェクトの促進要因でもあったが、心理社会的老化度の促進要因として解釈する場合には、この「親和性」は、既に述べたように「寂しさを紛らわすこと」と読み替えた方が良くもしい。

心理社会的老化度に阻害的に作用している変数は、「スマート3」、「体力」、「ストレス処理」、「性別」である。「スマート3」は知的活動能力であるから、知力と体力が心理社会的老化度に阻害的に作用しているということであるが、標準化係数の大きさからいえば、「スマート3」は、「体力」以上に心理社会的老化度に阻害的に作用していることがわかる。そして、「ストレス処理」がうまいほど心理社会的老化度の水準が低い。そして、また、日常活動老化度と同様に、男性であることが心理社会的老化度を阻害しており、この重回帰モデルに含まれるコンピテンスの水準が同一であった場合に

高齢者の日常的コンピテンス/ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

表 2.2. 心理社会的老化度の重回帰分析 (最終第 11 ステップの係数)

	非標準化係数		標準化係数		t	有意確率	相関係数		共線性診断	
	B	標準誤差	ベータ	標準誤差			0次	偏	許容度	VIF
(定数)	3.020	1.622			1.862	0.063				
年齢	0.133	0.017	0.173	0.022	7.858	0.000	0.159	0.191	0.978	1.022
依存性	0.357	0.051	0.169	0.024	7.077	0.000	0.265	0.172	0.831	1.204
自分に忠実 (率直) 1	0.319	0.050	0.160	0.025	6.449	0.000	0.256	0.157	0.765	1.308
アスピレーション	0.093	0.024	0.102	0.027	3.831	0.000	0.028	0.094	0.670	1.492
孤立	0.175	0.046	0.094	0.025	3.818	0.000	0.233	0.094	0.776	1.288
個性が強い	0.275	0.073	0.091	0.024	3.792	0.000	0.143	0.093	0.814	1.228
親和性	0.229	0.083	0.064	0.023	2.767	0.006	0.098	0.068	0.884	1.131
性別	-0.477	0.205	-0.053	0.023	-2.329	0.020	-0.069	-0.057	0.896	1.116
ストレス処理	-0.110	0.039	-0.071	0.025	-2.809	0.005	-0.086	-0.069	0.733	1.365
体力	-0.173	0.031	-0.139	0.025	-5.642	0.000	-0.200	-0.138	0.783	1.277
スマート 3	-0.171	0.029	-0.153	0.026	-5.978	0.000	-0.215	-0.146	0.717	1.394

R=0.477, R2乗=0.228, 調整済R2乗=0.222

分散分析表

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	7474.7	11	679.5	43.9	0.000
残差	25356.7	1637	15.5		
全体	32831.4	1648			

は、女性の方が心理社会的老化度の水準が高いことがわかる。

(3) 各モデルの一覧

これまで見てきた6つの重回帰モデルを一覧したのが表23である。

どのモデルにも登場していない変数は、「合理的思考」、「信念」、「フランク」である。逆に、6つのモデル全てに組み込まれた変数は、「体力」と「孤立」である。5つのモデルに組み込まれたのは、「ストレス処理」と「依存性」である。4つのモデルには、「性別」、「自分に忠実 (率直) 1」、「個性が強い」、「目標設定 2」が組み込まれた。3つのモデルには、「アスピレーション」、「親和性」、「家族資源」、「自分を大切にす 1」、「怒りの処理 1」が組み込まれた。2つのモデルに組み込まれた変数は、「年間世帯所得」、「積極低親密性」、「孤高」、「自己統制 1」、「家族外資源」、「ノーティ 1」、「マイペース」であり、1つのモデルだけに登場した変数は、「ナルシズム」、「手先の器用さ」、「折り合い」、「計画性」、「明朗快活 1」、「おしゃれ」である。

従属変数として用いる幸福感の尺度によって、高齢期の幸福感に影響を及ぼすコンピテンス/ライフ・スキルにかなりの相違が認められる。ある特定の幸福感尺度を従属変数として一つだけ用いたのでは、そうした相違は見逃されることになる。また、どのモデルにも共通する変数が2つだけということと、「合理的思考」、「信念」、「フランク」がどのモデルにも組み込まれなかったことは予想外であったが、以上の結果は、高齢期におけるコンピテンス/ライフ・スキルの問題を考える場合に、どのような観点から、どのようなコンピテンス/ライフ・スキルを取り上げるかが重要であることを示唆している。それによって、高齢者あるいは高齢期のコンピテンス/ライフ・スキルに関する議論が大きく変わるからである。

表23. 各モデルの標準化回帰係数 (β)

	肯定的 老後 生活観	ポジティブ ・ アフェクト	否定的 老後 生活観	ネガティブ ・ アフェクト	日常 活動 老化度	心理 社会的 老化度
年齢			0.119		0.200	0.173
性別		-0.047		-0.126	-0.092	-0.053
年間世帯所得	0.096	0.074				
合理的思考						
アスピレーション		0.174		0.071		0.102
ナルシズム			-0.087			
スマート3						-0.153
手先の器用さ		0.065				
積極的親密性		0.061	0.075			
親和性		-0.062		0.052		0.064
折り合い				-0.059		
体力	0.144	0.068	-0.170	-0.193	-0.248	-0.139
信念						
自分に忠実(率直)1			0.172	0.105	0.145	0.160
孤高		-0.077			0.074	
譲歩しない(妥協しない)						
個性が強い		0.073		0.092	0.060	0.091
計画性					-0.097	
孤立	-0.137	-0.094	0.106	0.084	0.145	0.094
自己統制1				-0.074	-0.091	
家族資源	0.175		-0.066		0.086	
家族外資源		0.126			-0.097	
目標設定2	0.103	0.138	-0.068	-0.099		
ストレス処理	0.131	0.053	-0.086	-0.153		-0.071
明朗快活1	0.065					
依存性	-0.074		0.176	0.232	0.079	0.169
フランク						
ノーティ1				0.048	0.051	
自分を大切にする1	0.130	0.136		0.056		
おしゃれ				0.072		
怒りの処理1	-0.057		0.085	0.090		
マイペース		-0.049			0.054	
調整済みR ² 乗	0.290	0.346	0.201	0.241	0.302	0.222

6. むすび

本稿では、筆者が作成した幸福感尺度(肯定的老後生活観尺度と否定的老後生活観尺度、ポジティブ・アフェクト尺度とネガティブ・アフェクト尺度)と主観的老化度尺度(日常活動老化度尺度と心理社会的老化度尺度)、コンピテンス/ライフスキル尺度を用いて高齢期における幸福感に及ぼす影響を分析した。

取り上げた種々のコンピテンス/ライフ・スキルと幸福感や老化度との関係を個別に見ると、「自

高齢者の日常的コンピテンシ／ライフ・スキルの測定尺度の開発とその利用

分を大切にする」や「ストレス処理」、「支援資源」（家族資源、家族外資源）、「明朗快活」、「体力」、「目標設定」、「融和的社会関係」、「ナルシズム」、「スマート」、「手先の器用さ」、「フランク」、「積極的親密性」、「折り合い」、「アスピレーション」、「合理的思考」、「自己統制」、「合理的積極性」、「おしゃれ」、「計画性」、「計画づくり」、「譲歩しない（妥協しない）」、「ノーティ」、「自己主張」、「信念」といったコンピテンシ／ライフ・スキルは幸福感と有意な正の相関関係にあり、「依存性」や「孤立」、「自分に忠実（率直）」、「自己主張」、「孤高」、「マイペース」、「信念」、「個性が強い」、「フォロワー」、「親和性」、「個性が強い」、「親和性」、「怒りの処理」といったコンピテンシ／ライフ・スキルは有意な負の相関関係にある。また、主観的老化度との関係では、「依存性」や「自分に忠実」、「孤立」、「孤高」、「自己主張」、「個性」、「マイペース」、「信念」、「親和性」、「フォロワー」、「怒りの処理」といったコンピテンシ／ライフ・スキルが有意な正の相関関係を示している。

しかし、コンピテンシ／ライフ・スキル相互の影響を除去すると、幸福感や老化度と有意な相関関係にあるコンピテンシ／ライフ・スキルはそう多くはない。本稿では、幸福感および老化度を従属変数とし、コンピテンシ／ライフ・スキルを独立変数とする重回帰分析を行った結果、「目標設定」、「自分を大切にする」、「体力」、「ストレス処理」、「家族外資源」、「手先の器用さ」、「自己統制」、「折り合い」、「明朗快活」、「ナルシズム」といったコンピテンシ／ライフ・スキルが高齢期の幸福感を高めていることが明らかにされた。そして、「目標設定」や「自分を大切にする」、「体力」、「ストレス処理」といったコンピテンシ／ライフ・スキルは、経済的豊かさよりも幸福感を左右しており、高齢期における幸福感に諸種のコンピテンシ／ライフ・スキルが及ぼしている影響が大きいことが明らかにされた。

逆に、幸福感に阻害的に作用しているコンピテンシ／ライフ・スキルは、「孤立」や「依存性」、「怒りの処理」、「自分に忠実（率直）」、「孤高」、「マイペース」、「ノーティ」である。

幸福感に促進的にも阻害的にも作用しているコンピテンシ／ライフ・スキルは、「積極的親密性」、「親和性」、「個性が強い」、「アスピレーション」である。

「自分に忠実（率直）」や「孤高」、「マイペース」、「個性が強い」といったコンピテンシ／ライフ・スキルが幸福感に阻害的に作用しているという結果は、筆者がいう自己志向仮説を反証するものとなった。これらコンピテンシ／ライフ・スキルは、拘束的な社会関係と義務的活動から離れて、より主意的で選択的な社会関係の下で自分に忠実に、あるいは孤高を持してマイペースで我が道を行く、という生活スタイルや生き方を実現するものといえる。そして、そうした自己志向型の生活スタイルや生き方が許されるのも高齢期であるといえる。しかしながら、今回の分析結果は、高齢期における「社交性の低さ」は幸福感を阻害しており、筆者のいう自己志向仮説を反証するものとなった。

しかし、「社交性の低さ」とは全く逆のタイプとみなしうる「積極的親密性」や「親和性」、「怒りの処理」も必ずしも幸福感を促進しておらず、阻害している面があることも明らかになった。「積極的親密性」や「怒りの処理」といったコンピテンシ／ライフ・スキルは、一般的には良好な社会関係を維持する能力と理解されており、高齢期における生活満足感や幸福感を高めると考えられている。したがって、社交的あるいは人付き合いが上手であることが、高齢期における生活満足感や幸福感を高めるものとはなっていないばかりか、むしろ阻害しているという結果は、正直なところ意外である。この結果に関しては様々な解釈が可能であろうが、社会関係に関わるコンピテンシとサクセスフル・エイジングに関してあらためて検討しなければならない課題を提起していると考えられる。

「アスピレーション」が幸福感に阻害的作用する面があることは、アスピレーション・レベルが高いことが高齢期の幸福感を必ずしも促進するわけではないことを示唆しており、この結果も一般的な理解を覆すものといえそうである。また、「ノーティ」は、茶目っ気があって気が置けない人柄のまま気ままに暮らすためのコンピテンシ／ライフ・スキルであって、そうしたコンピテンシ／ライフ・

スキルを持っている人はポジティブ・アフェクトの水準が高いと考えることができるが、結果は幸福感を阻害していることを示している。

老化度は年齢によって大きく作用されると考えられるが、それだけではなく、コンピテンス／ライフ・スキルも大きく影響している。とくに、「自分に忠実（率直）」や「孤立」、「依存性」、「孤高」、「個性が強い」、「マイペース」、「ノーティ」といった幸福感を阻害するコンピテンス／ライフ・スキルが老化度を促進している。特徴的なことは、「家族資源」が老化度を促進していることである。このことは、頼りになる「家族資源」を有するがゆえに日常的活動における老化を強く意識するようになるということであろうか。また、「個性が強い」や「ノーティ」が老化度を促進しているということは、個性的であることやお茶目であることは、それだけ老化を強く意識するということかもしれない。

「アスピレーション」が心理社会的老化度の促進要因になっていることは、アスピレーションが高い人ほど心理社会的老化を強く意識するということであろうか。

「体力」が老化度を阻害していることは常識的に理解できるが、知力に関わるコンピテンス／ライフ・スキルである「スマート」が「体力」以上に心理社会的老化度に阻害的に作用しており、「ストレス処理」がうまいほど心理社会的老化度の水準が低いことが明らかになった。また、コンピテンスの水準が同一であった場合には、女性の方が心理社会的老化度の水準が高いことも明らかにされた。

以上、高齢者のコンピテンス／ライフ・スキルを高齢期の幸福感と老化度との関係から考察した。その関係は単純ではなく、考えていたよりもはるかに複雑である。今回の分析を通じての実感であり、正直なところ思いもかけない結果が多かった。いうまでもなく、幸福感や老化度を規定する要因は多様であり、コンピテンス／ライフ・スキルだけで説明できるものではない。重回帰モデルの説明力も20～30%程度である。しかし、今回の分析で、サクセスフル・エイジングへ向けた高齢期におけるコンピテンス／ライフ・スキルの向上という課題に対して多くの新たな知見が得られたと考える。それらの知見は、中高年者のコンピテンス／ライフ・スキルに関するこれまでの理解に修正を求めることになるであろうし、それらの訓練プログラムを再検討することを求めることにもなる。しかし、このことは、本稿における結果を絶対的なものであると主張しようとするものではない。異なったコンピテンス／ライフ・スキルを構成することは可能であるし、そうしたコンピテンス／ライフ・スキルを導入したモデルでは、また別の結果も得られるであろう。また、コンピテンス／ライフ・スキルを幸福感や老化度ではなくて別の対象と関連させて分析すれば別の結果が得られるであろう。

残した課題は多い。とくに、道具的・手段的なライフ・スキルに関してはほとんど触れることができなかった。高齢期において必要とされる、あるいは、高齢期の生活を充実させる道具的・手段的なコンピテンス／ライフ・スキルにはどのようなものがあるか、ということについては、これまでにも検討を重ねてきたが今回の調査には十分に盛り込むことができなかった。ひとり暮らし高齢者とくに男性のひとり暮らし高齢者に対する料理教室などが開催されることがあるが、手際よく満足のいく料理を作ることができるスキルがあるか否かは適切な食生活ができるか否かを大きく左右するであろう。そして、そうしたスキルは、健康の維持と、そのことによって可能となる本人の望む生活スタイルを支えることになる。衣食住に関するこまごまとしたスキルから、電子化、情報化された今日の生活に適應するためのスキル、趣味や仕事に関わるスキルなどが考えられるが、それら道具的・手段的なライフ・スキルも、心理社会的なライフ・スキルと同様にサクセスフル・エイジングを大きく左右するであろう。そして、道具的・手段的なライフ・スキルと心理社会的なライフ・スキルとの関係や、そのいずれがサクセスフル・エイジングをより強く左右しているか、ということも重要な課題であろう。そうした分析が筆者に課せられた次の課題である。

文 献

- Bradburn, N. N.(1969). *The structure of psychological well-being*, Chicago, Aldine.
- Cavan, R. S., E. W. Burgess, R. J. Havighurst, H. Goldhammer(1949). *Personal Adjustment in Old Age*, Chicago, Science Research Associates.
- Diehl, Manfred (1998). Everyday Competence in Later Life: Current Status and Future Directions, *Gerontologist*, Vol.38, No.4, 422-433.
- Featherman, D. L., J. Smith, J. G. Peterson(1990). Successful Aging in a Post-retired Society. in P. B. Baltes and M. M. Baltes eds., *Successful Aging: Perspectives from the Behavioral Sciences*, New York, Cambridge University Press.
- Lawton, M. P.(1972). The Dimensions of Morale, in D.P. Kent et al. eds, *Research, Planning and Action for the Elderly*, New York, Behavioral Publications.
- Neugarten, B. L., R. J. Havighurst, S. S. Tobin(1961). The Measurement of Life Satisfaction, *Journal of Gerontology*, 16, 134-143.
- 小田利勝(1992). 「高齢者の老年観の測定尺度と分析モデル」『徳島大学社会科学研究』第5号、159-180、1992。
- 小田利勝(1993). 「サクセスフル・エイジングに関する概念的考察」『徳島大学社会科学研究』第6号、127-139。
- 小田利勝(1999). 「高齢期における自立生活と日常生活活動能力をめぐって」『神戸大学発達科学部研究紀要』第7巻第1号、201-222。
- 小田利勝(2002). 「高齢者の日常的コンピテンスの構造」『神戸大学発達科学部研究紀要』第9巻第2号、213-240。
- 小田利勝・野上智行・小石寛文(1997). 「サクセスフル・エイジングとライフスキルに関する一考察」『神戸大学発達科学部研究紀要』第4巻第2号、363-374。
- 中島康之・小田利勝(2001). 「サクセスフル・エイジングのもう一つの観点—ジェロトランセンデンス理論からの考察—」『神戸大学発達科学部研究紀要』第8巻第2号、255-269。

付記 本稿は1999～2000年度科学研究費補助金(課題番号09410045)に基づく研究成果の一部である

